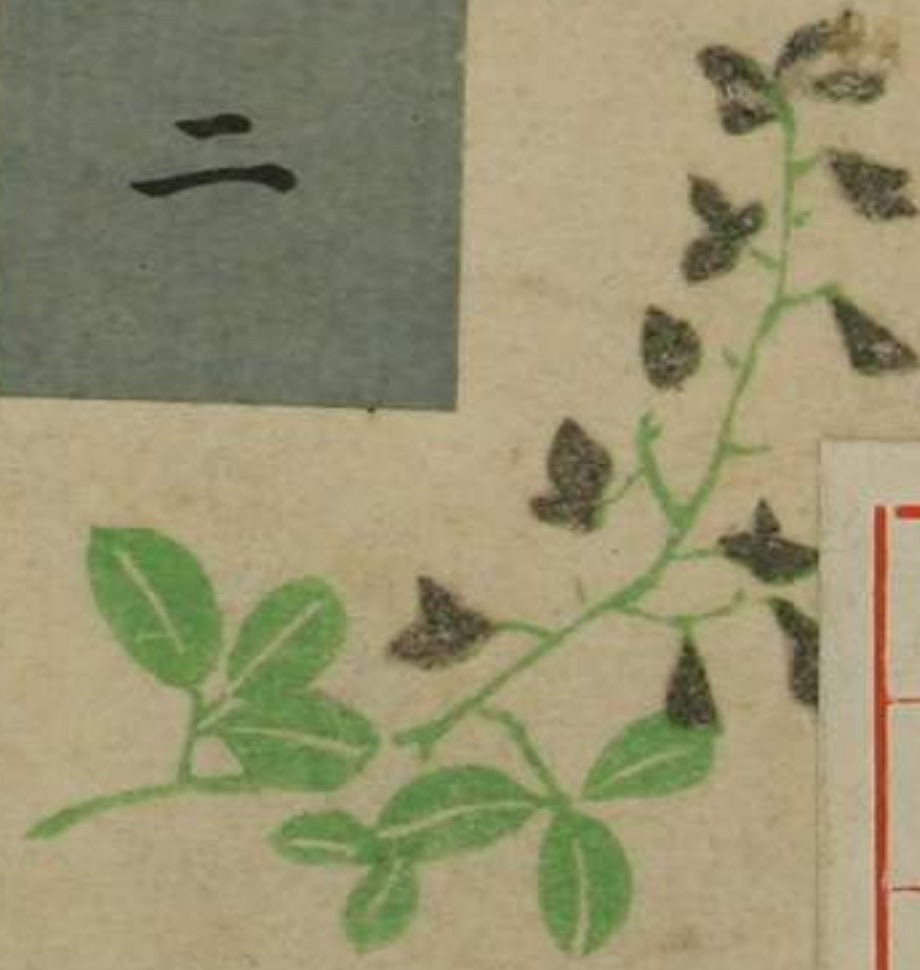


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

八江款名所畝畫

二



ル 4
303
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
JAPAN
Tejima

呂
門
號 303
卷 2

八江款名所圖画二之卷

目錄夏之部上

倉江歸帆

同古圖

同新圖

觀音院

玉江秋月

同古圖

玉江大河之總圖

五鬼權現社

天狗拍子之圖

梅屋敷之圖

光山寺

楞嚴菴

晒場之圖

金輪寺

面影山

櫻江暮雪

同古圖

同新圖

同渡場之圖

大照院

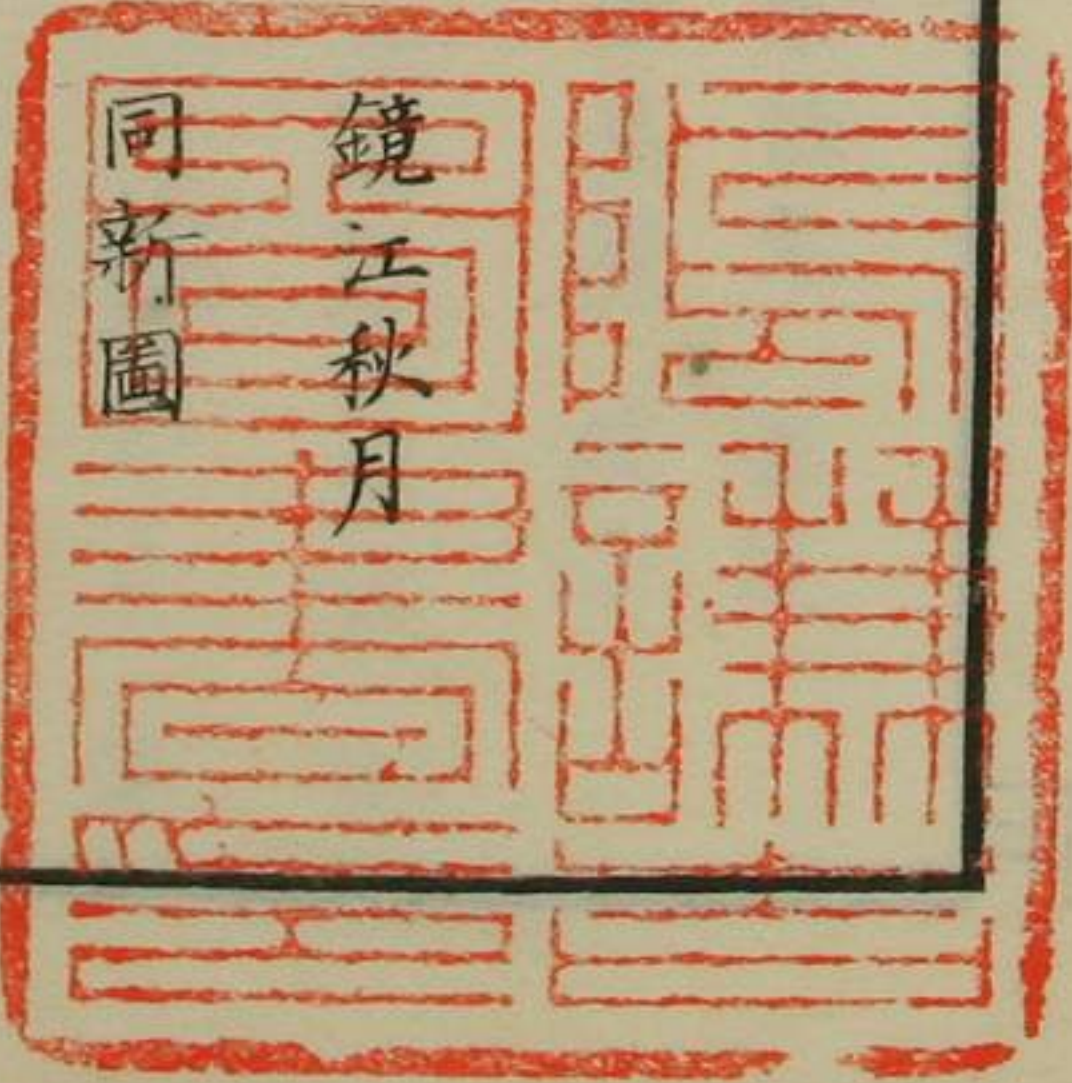
同總圖

高月院

清正院

道樹院

崇觀音堂之圖



鏡江秋月
同新圖

大正
西
屋
藏
反

小松江晚鐘 同古畫 同新圖 古川筋

西法寺 椿八幡宮 同圖

長門の守へ白雉を献する圖 永福寺

西福寺 福昌寺 茶臼山

以上目錄參拾九條

八江菽名所圖画二之卷

八江菽名所圖画二之卷

木梨恒充 著述

夏之部上

山縣篤藏 補正

倉江歸帆 八江瀨城八勝の一よして眺望殊に壯豁の地
 あり高東風の長閑に吹出れ八島根に波の花をらしし雲
 の上は鳴く郭公ハ夕やこ早くすたておもひをのこに金風
 乃涼しく立てハ初汐に磯への松をあふみ行帰る釣舟ハち
 びらり落葉とまうひ漕よする大船の帆ハ雪うともれ
 もころへくいていしくあかねるめなり々と四方の風
 流士ときるはいて是を賞翫せぬハあ

地挹遠天三面開水漫數鳥一帆回倉江風熟潮生駛
疑是仙槎銀漢來
原欽

を島や浪もひらけみくらるるをよりむてゆるゆゆの春貞

因に云昔は地ハ沖城山の尾今の鼻くりのわきを終に瀬のかよひちのこ
りてひとつとつきさうりう法といなり大河とさるぬ是ハ吉川家より
上へのは地まゝ堀らせられさうとそ

鏡江秋月 いしへハ重萩八景の一として玉江川尻の所
ありといへり

潮音山觀音院 玉江浦町の中程にあり臨家の禪刹なり
て洞春寺の派中なり本尊釋迦如来ハ金銅佛の唐作とい

ふ開山不見別當の草建よて大同年間なりといひ傳ふ
就中破壊して久しく絶えたるを永祿年中一傳得公座元
和尚これを再建す是則中興なり

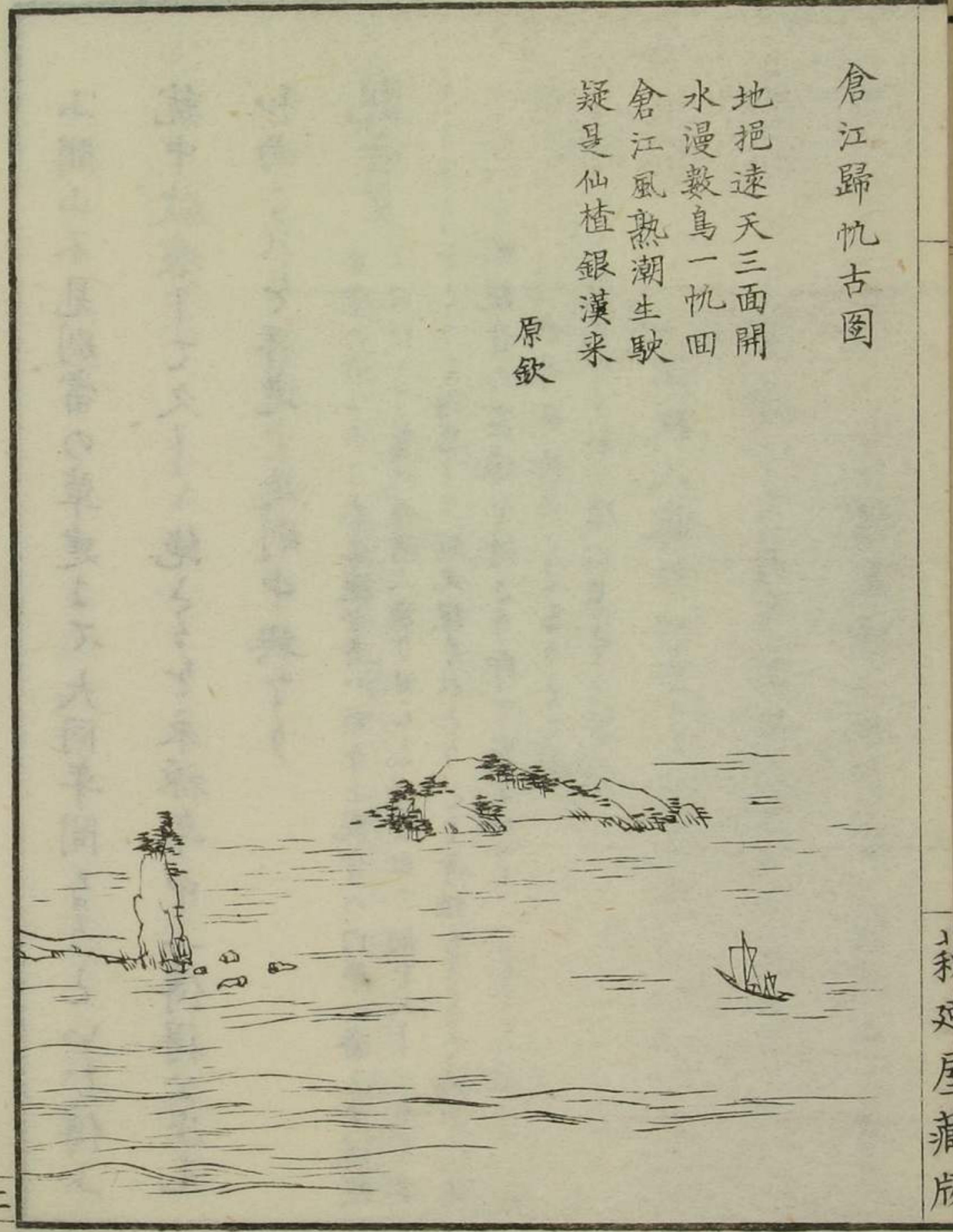
觀音堂 本堂の右にあり本尊觀世音ハ市中七觀音の内第一番とす縁起
は日むくし當所の浦人漁りせんと沖に出て網を入しは忽ち浪
さきき舟をとらて海底より瑞光現れたりこそ奇怪なりとて網を引揚
るれば金銅觀音の靈像を得たり即て家よりつらふはよりを
語りたれば村長等奇特のこころなりとて則
當所の草舎をいれし信心怠くはと云

玉江秋月 八江萩八勝の一として殊に葉月の比ハ詞人
吟客こゝに羣游して月を賞翫ふ陸より行きのあれを
舟に乗り出る人あり清風徐に吹き来て連波岸を濯ふ

倉江歸帆古圖

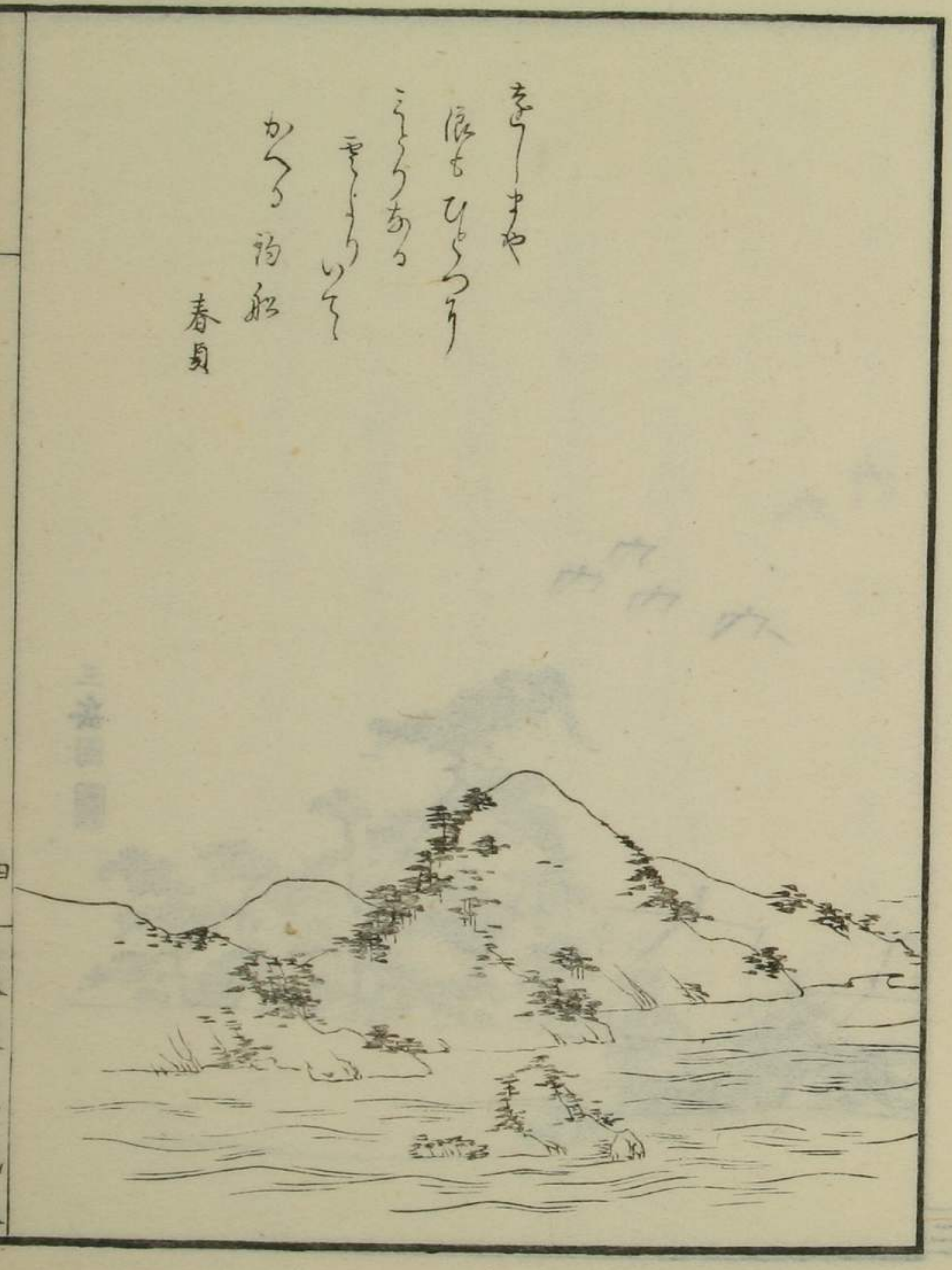
地挹速天三面開
水漫數島一帆回
倉江風熟潮生駛
疑是仙植銀漢來

原欽

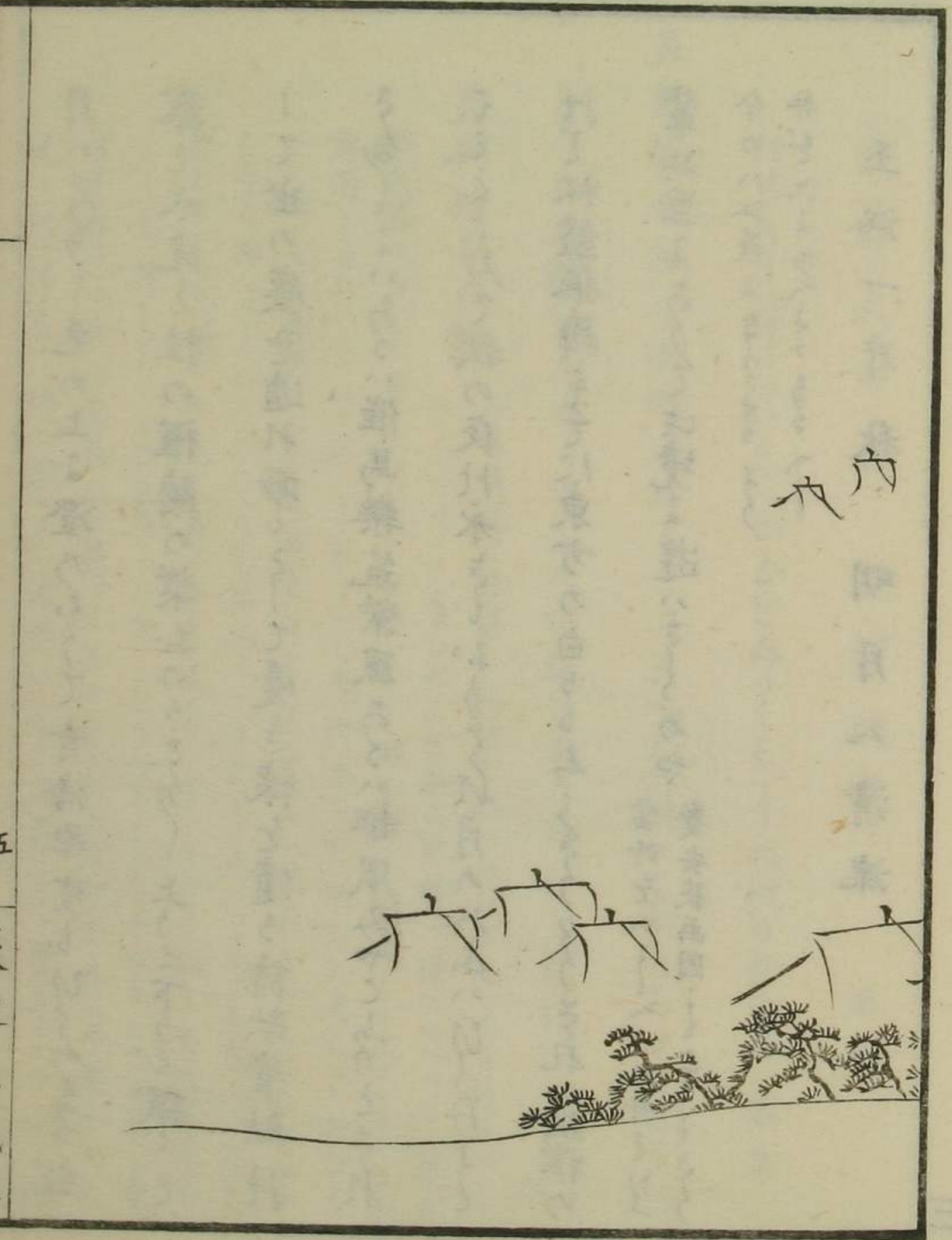


春
風
吹
綠
柳
花
開
鳥
鳴
水
滿
舟
行
人
歸
帆
遠
影
空
中
雁
字
橫

春景



五
上
火
西
屋
三
歳
反



内内

三



三岳園
三

三
林
苑
歴
藏
版

月ハるるく尾の上ニ澄乃ちりて青海原空もひくろまる白
 露と水光と桂の權蘭の槩おのろりく上りニ下りニ飄くと
 して世の塵を遁れ渺くして憂き懐を遺る詩歌管絃は
 さめくはあるハ催馬樂筑紫風あるハ鄙風みやこゆりとされ
 たることよみて秋の夜は永きもおりの月の入山ハひびくはよと
 けと杯盤狼藉もてに東方の白うもあつらうさるさるハ幽雅の
 輩此里ニありては境ニ遊ハさるめや
當所をいへハ玉井と云
 慶安萩画圖ニもあつらう
 今のハ江萩ニありたるより
 井を江ニかくらるるへー

玉江一片秋 明月入清流

夜静人回首 漁村烟霧収 原欽

はのあしほろかけさへおむをみるくろりの秋の夜月春貞

五鬼權現社 同所浦町より二三丁を隔て南ニありり二丁は

うりの石壇を乃ちりて山の中腹ニあり号けて權現山といふ

天狗拍子の舞

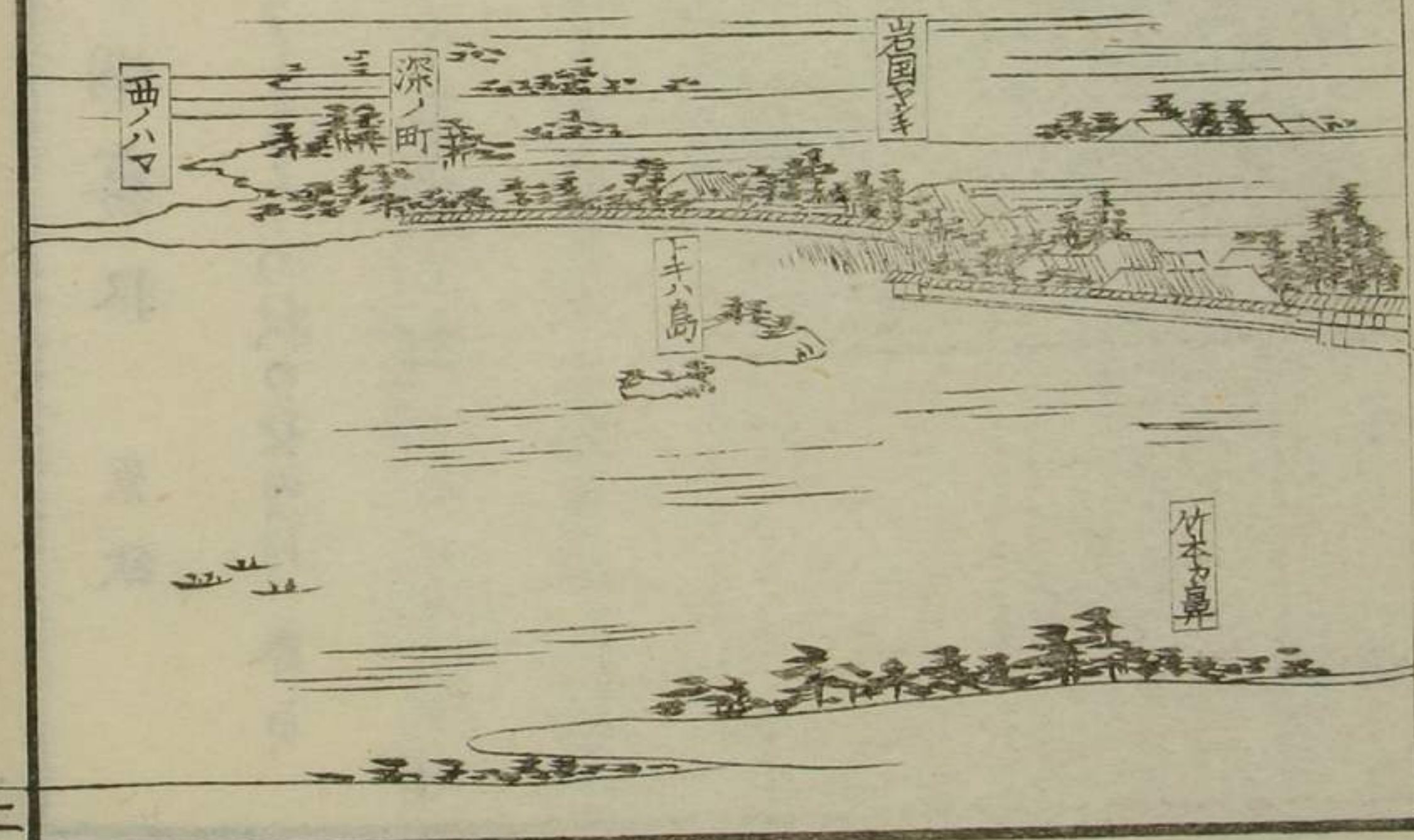
五鬼權現の祭事ニ執行す是ハいつらの比より起りりと云といふ

浦の獵人沖より帰らんとせしは陸のうゑ賑をひて拍子のとく妙なるり不
 圖聞えたれハこいつのりてとるんと舟押立まれハ猶先ニ漕かぐる舟より
 こも何人の仕業ニやわら色音をとりやばえ猶道よりて実否を正さ
 くらと思へともやられりて其人とも又あかねハせんすへんといふを
 せまうといつら中にも是ハうきあつせん舟の舳ニ鳥賊魚の黒
 めうち付てありこのあつらうを一夜のあくるやいなかの舟を尋
 ねられハ一人の老翁が笑いて舟の上ニ立り即て夜への舞拍子の
 色々のろろく傳へ授りて老翁はく此舞よく覺えては浦ニ漁

玉江大河の惣圖

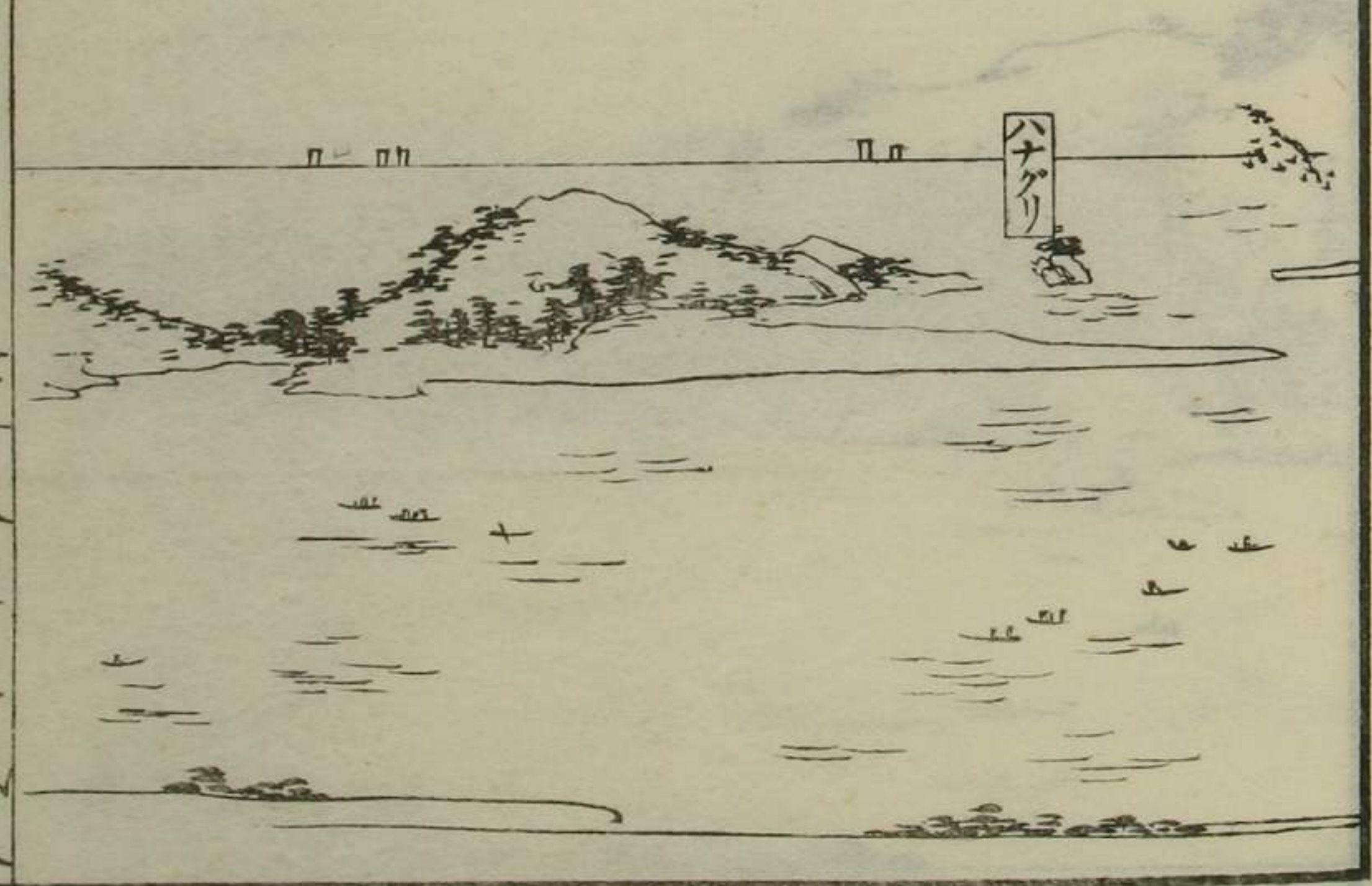
今夜瀟城月潮音閣
 上看晴暈浮八水雲
 影落三韓下界纖塵
 中天大鏡團曉鐘隨
 意促戀賞倚欄干

何處無明月玉江最賞
 秋澄波風疊練晴岸樹
 維舟難与姮娥伴但隨
 鷗鳥遊欲窮幽靜勝聊
 上梵王樓 南溟

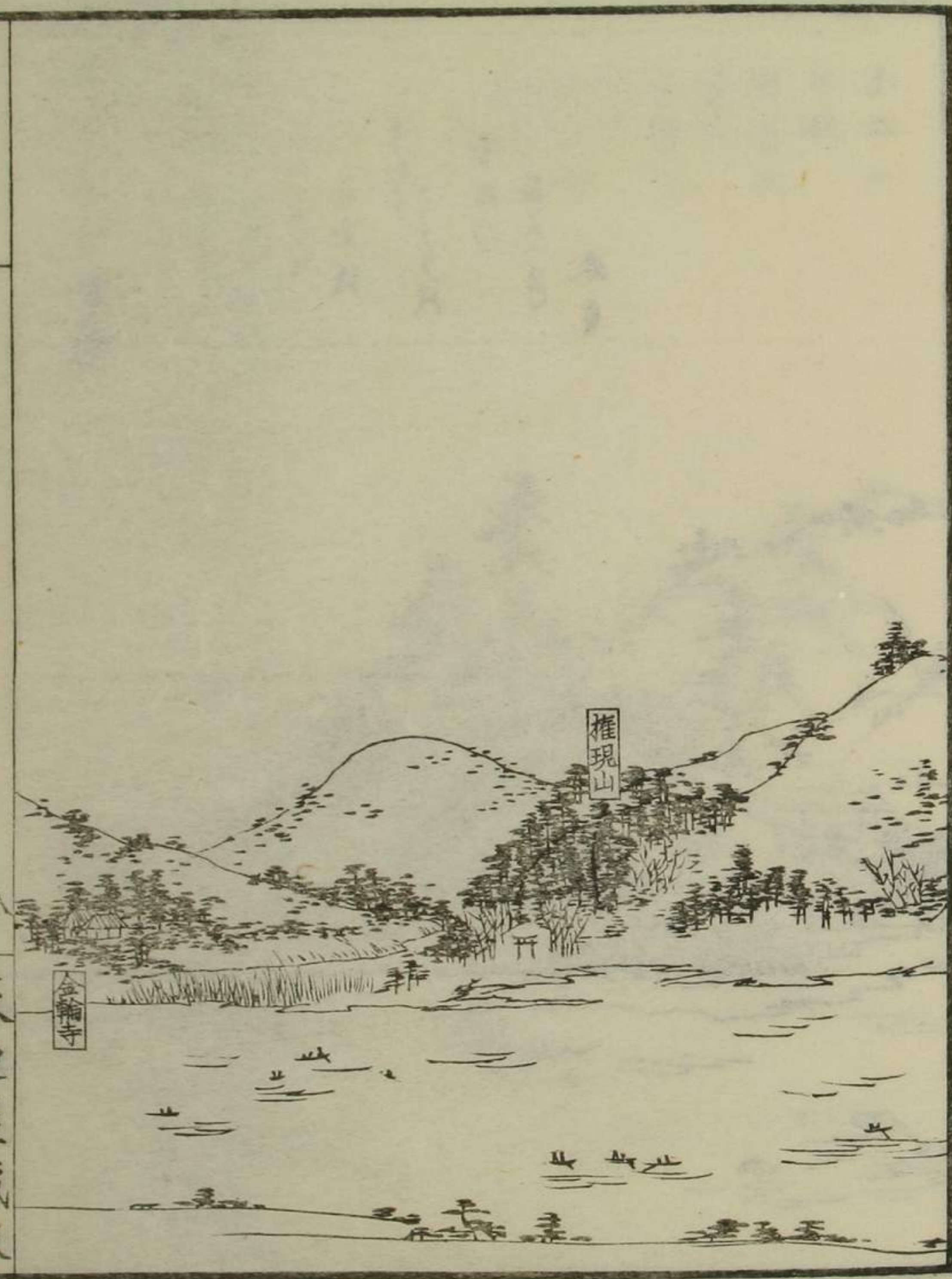


秋屋藏片

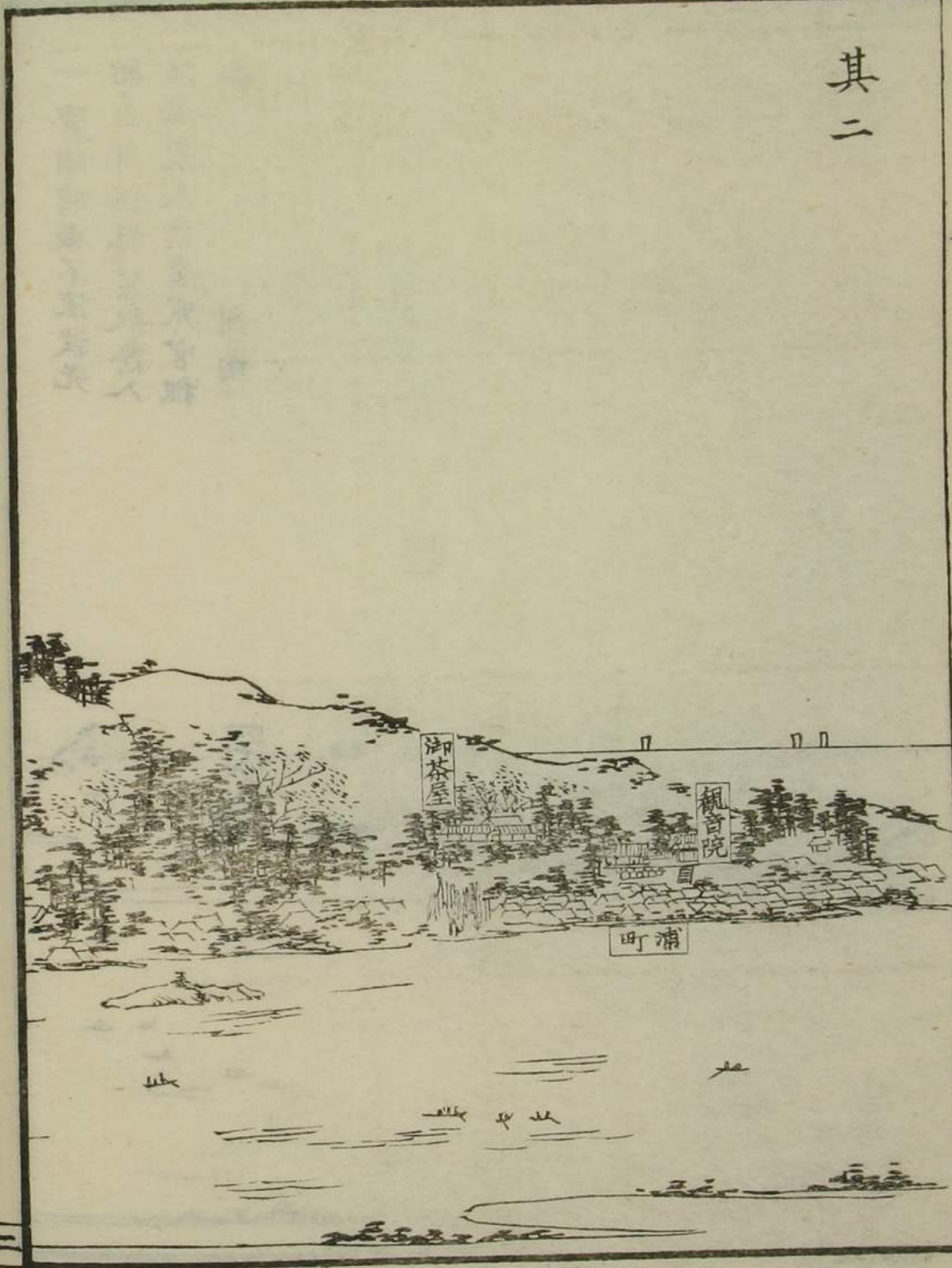
一碧瑠璃凝不流波光
 始白月滿樓笙歌忽入
 西風起人住廣寒宮裡
 秋 周南



秋屋藏片



其二



玉江秋月古園

江の水

うらら

うけえ

白の城

うらら

うらら

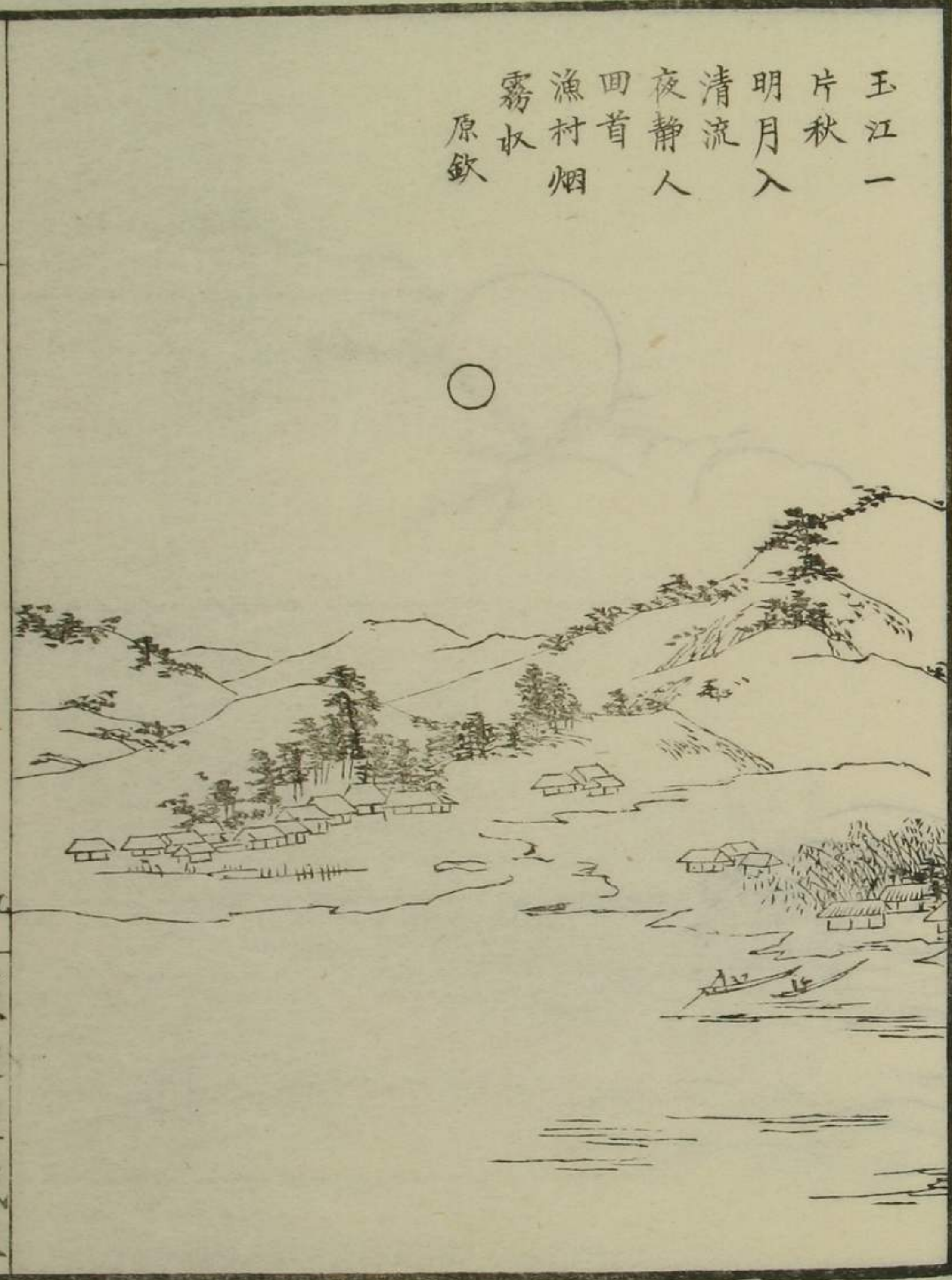
夜の月

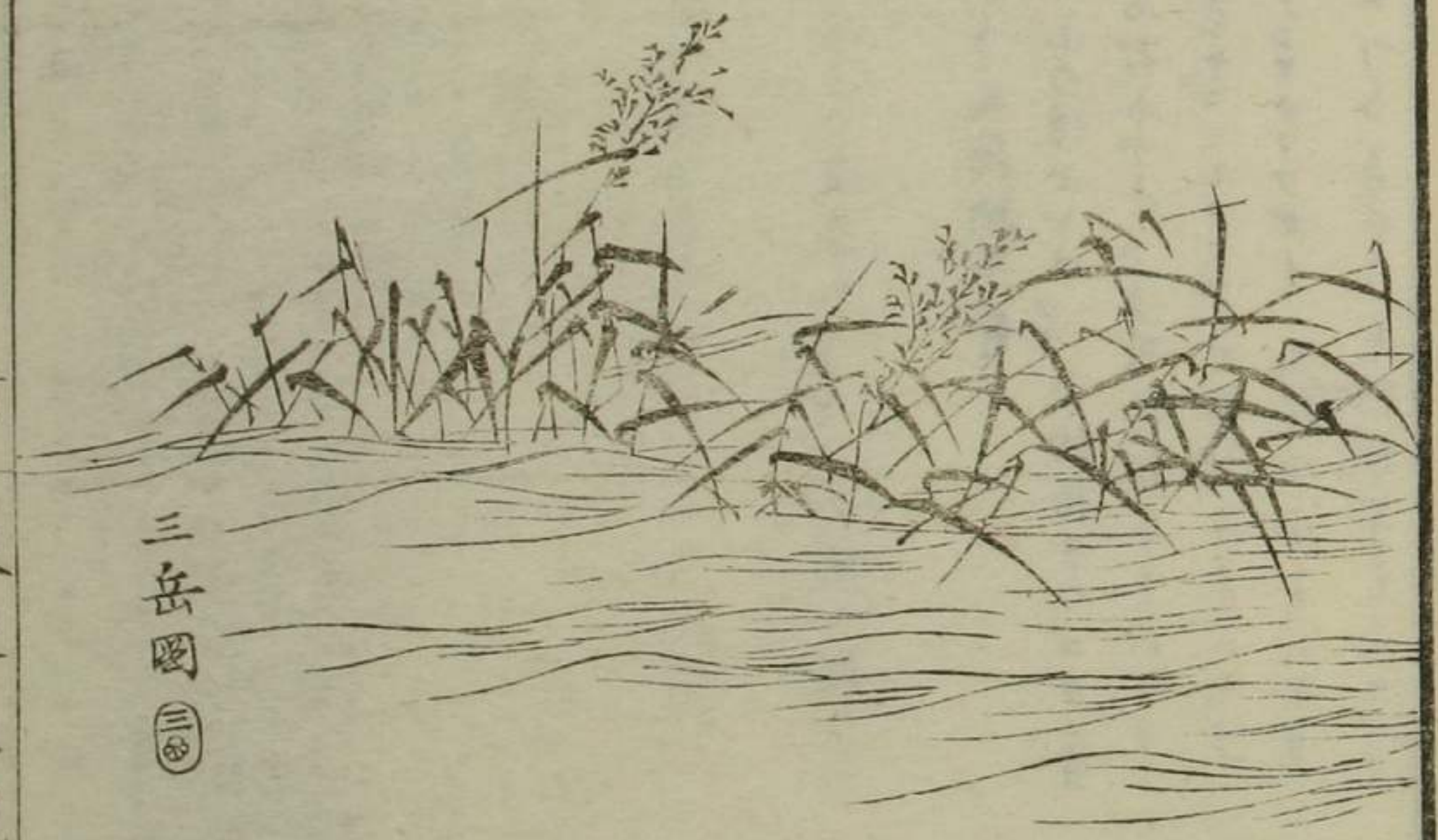
春貞



秋
屋
宿
片

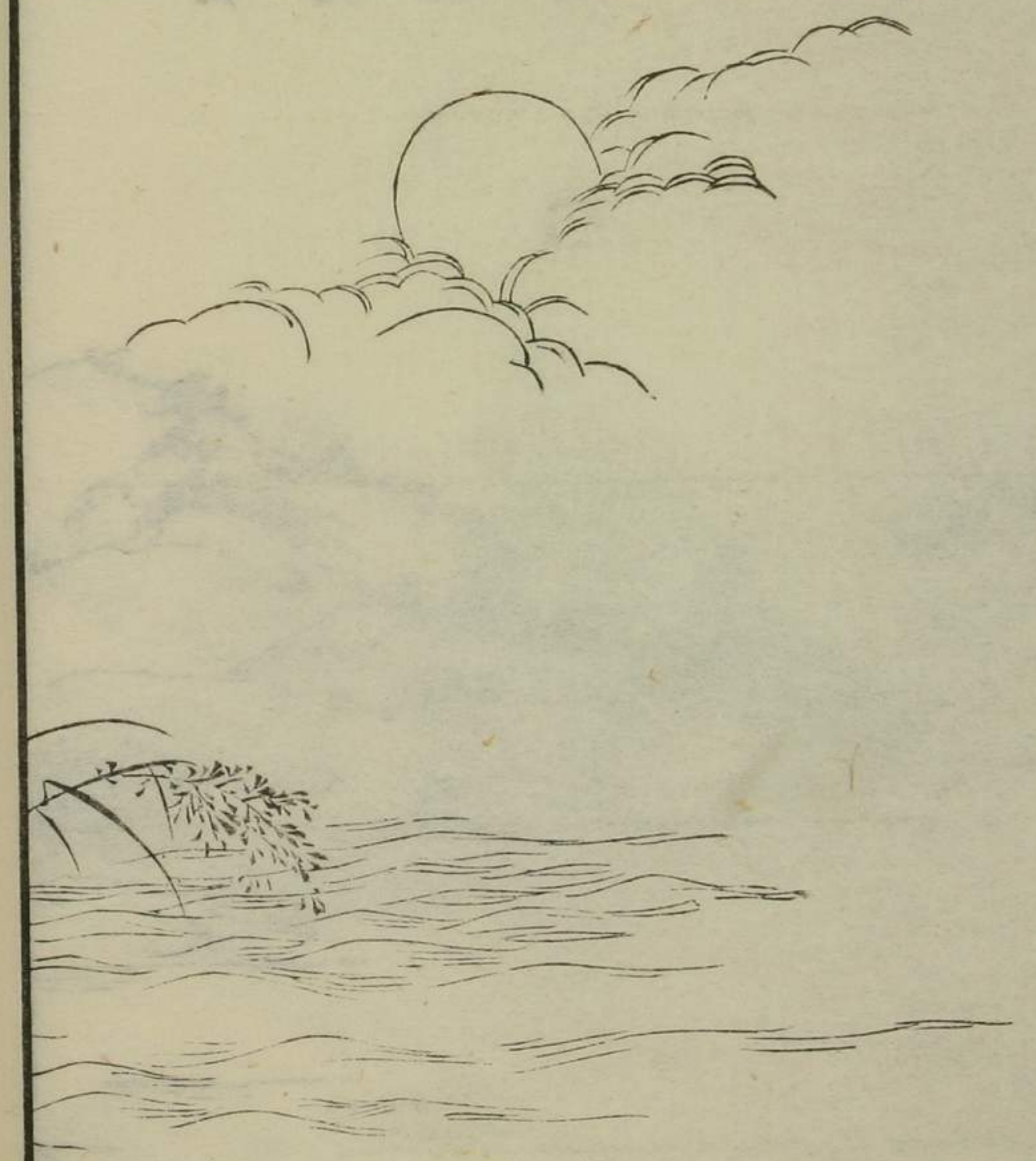
玉江一
片秋
明月入
清流
夜静人
回首
漁村烟
霧収
原欽





三岳圖

十
水
地
屋
藏
版



三

山
水
屋
藏
版

りなきと記奏す(一)必以あまこの漁りある(一)ゆめうぐみすまふれと
物語りてかきけす斗りうせむひぬ是や神の詫宜き(一)とみやまひか
しこみて夫より獵りやの祭として此舞を奏し来りりとも其後権現社
所勧請ありてより社前において是を執行す年々獵いと多しまた時
よふれて獵なきと記し此舞を公に願出て舞
ふかたは大獵ありて浦の賑もいとされり

右の舞歌いと古雅なれはよしと云

初め惠比須舞といふ奇り
我ハまの西の宮惠比須三郎我事之釣の糸をくゆく云々と祝ふ

中々大黒舞といふ奇り奇り

是ハまの生國を守護する大黒天といは我事之 サアリテ 大黒の控よハ
大こくのれきてはハ云々と祝ふ

あのみつをウツタテといふ是より天狗拍子哥

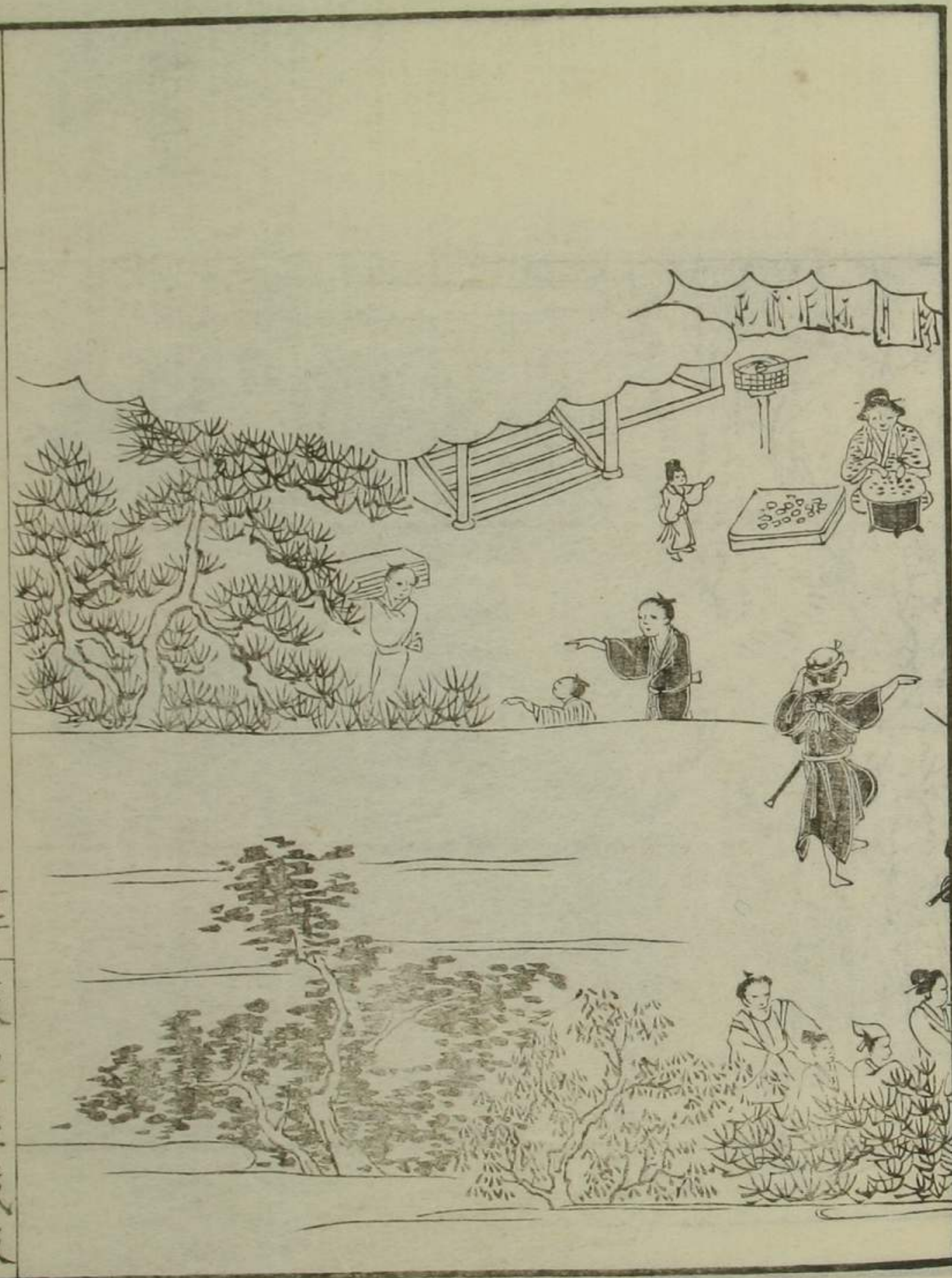
- 一番 牛若のおのハくらまのヤリヤ山の傍正がごツケ天狗拍子ハゴケイコ
- 二番 それよりてハあご山一ろあおあごツケ天狗拍子ハハヤリ
- 三番 周防の國でハ大田がどけアヤヒリヤア天狗拍子ハハヤリ
- 四番 夫よりてハといふがさんアヤサマツダイ 天狗拍子ハハヤリ
- 五番 ま後の國でハ虎のおんやまつらみや 天狗拍子ハハヤリ

六番 牛若のおのハくらまのヤリヤ山のハツむねつくり天狗拍子ハ是迄ウ

念佛躍

是も(一)祭礼に執行すは舞いと推さるりのこのより起りり詳
る(一)れと我叔父諫早侍考へるものこれハ(一)のす鄙の神事
すゆる念佛躍てふりのハ慶長年間ニ奈古吾山三郎と出雲の國の巫女お國
とつりものとあまの舞妓を集へ華活四糸河原ニ芝居をこし備衣を
着し鉦を和き仙号ニゆいを付けて踊るなり是を念佛踊といひりかる名
目のうづれり(一)やあんとおわゆ(一)岩倉花園(一)といひて北山(一)て毎
月念佛踊てふものあり是ハ燈籠をかりきをるん(一)と按(一)ははき舞
をさしてあふの(一)を(一)他所(一)も樂(一)を(一)う(一)といふよりておもハ(一)是ハ
と田楽の遠風(一)の(一)やあんと(一)あ(一)る(一)れ(一)り(一)古(一)き(一)田(一)楽(一)の(一)画(一)ニ(一)笠(一)の(一)大(一)き(一)な(一)る
と作り花をかき(一)て胸(一)に(一)付(一)る(一)鼓(一)う(一)つ(一)操(一)る(一)とい(一)く(一)何(一)れ(一)り(一)今(一)も(一)舞(一)奈
良(一)ハ(一)田(一)楽(一)現(一)存(一)して其業を(一)ま(一)る(一)と(一)ま(一)ら(一)家(一)あり(一)て(一)春(一)日(一)の(一)宮(一)の(一)神(一)事(一)ニ
執行す(一)と(一)ま(一)る(一)田(一)楽(一)も(一)ま(一)る(一)を(一)代(一)り(一)か(一)り(一)て(一)榮(一)花(一)物(一)語(一)ニ(一)ま(一)る(一)
ハ(一)あ(一)き(一)女(一)一(一)や(一)り(一)に(一)紅(一)粉(一)を(一)妻(一)ち(一)ひ(一)齒(一)を(一)尾(一)く(一)漂(一)り(一)白(一)き(一)衣(一)ニ(一)白(一)き(一)小(一)笠(一)をか
かり田面(一)に(一)あり(一)たり(一)て(一)苗(一)を(一)埒(一)る(一)田(一)主(一)とい(一)ふ(一)男(一)坊(一)尼(一)とい(一)ふ(一)女(一)二人(一)大(一)き(一)な
る(一)笠(一)を(一)さ(一)り(一)け(一)足(一)駄(一)を(一)た(一)て(一)田(一)上(一)ニ(一)か(一)回(一)鼓(一)とい(一)ふ(一)もの(一)を(一)腰(一)ニ(一)結(一)付(一)苗(一)ふ
き(一)さ(一)ら(一)り(一)て(一)「(一)ま(一)る(一)カ(一)サ(一)を(一)ぬ(一)く(一)て(一)ハ(一)弱(一)女(一)君(一)の(一)ふ(一)せ(一)の(一)ま(一)ま
く(一)さ(一)せん(一)と(一)り(一)ふ(一)と(一)見(一)ゆ(一)り(一)ハ(一)殿(一)上人(一)も(一)敬(一)ひ(一)む(一)ひ(一)もの(一)の(一)り(一)て(一)古(一)事

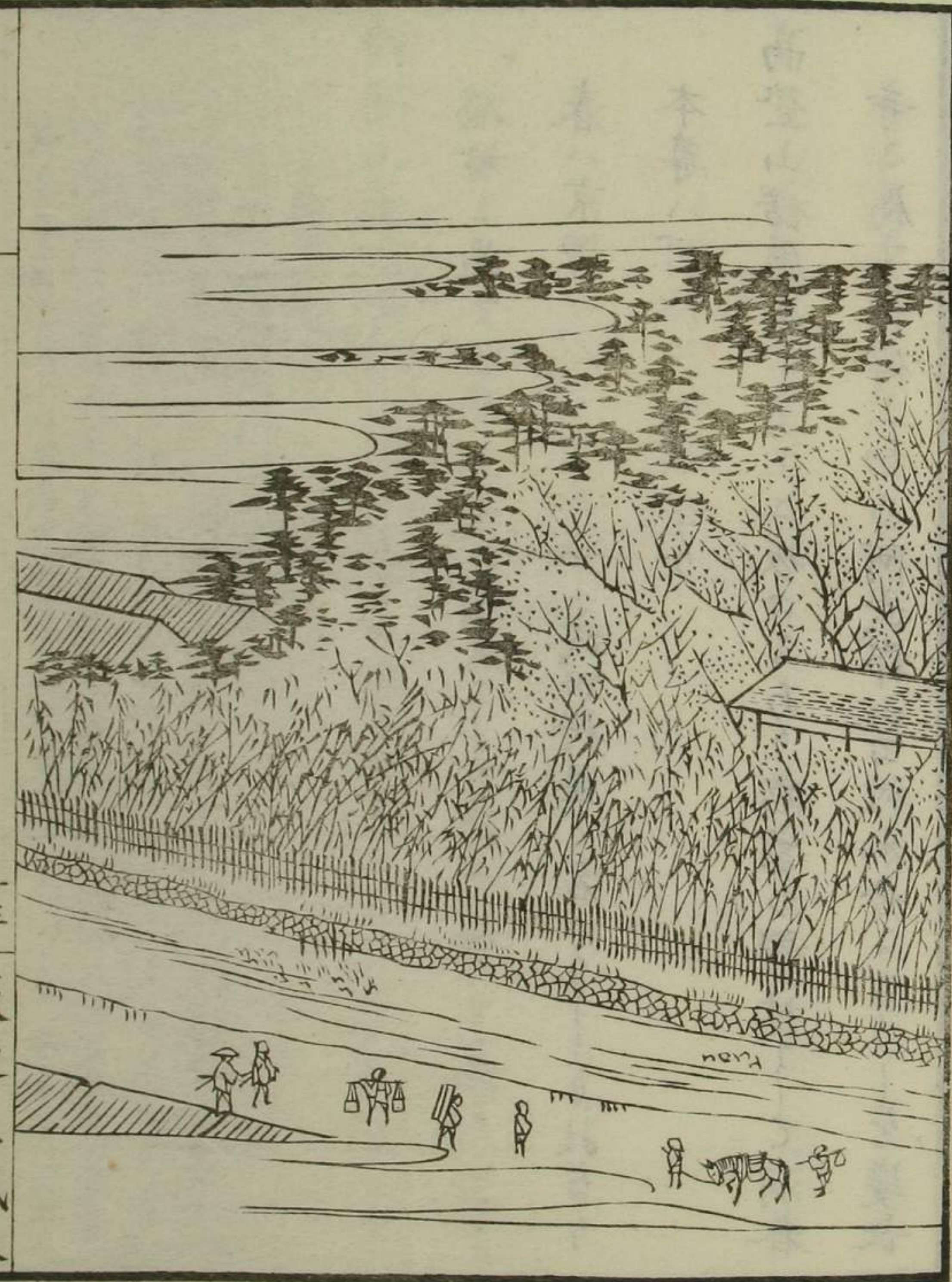
十一
大黒舞



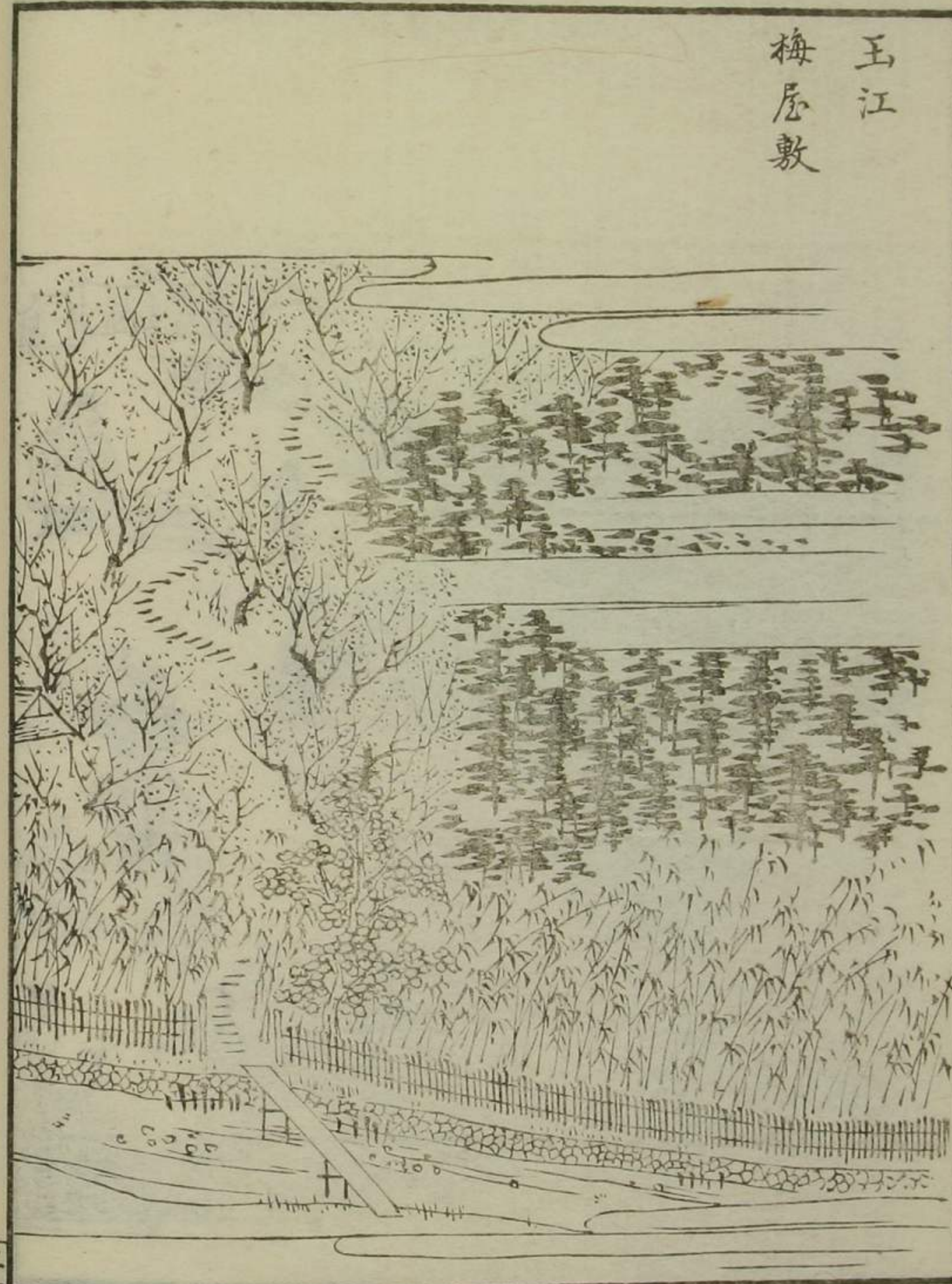
五鬼權現社前
天狗拍子の図



五鬼權現社前
天狗拍子の図



十三
 上
 水
 屋
 歲
 反



玉江
 梅屋敷

社
 延
 屋
 片

二

談しむるゆき元弘建武の比まとも田楽といふありて猿楽といふも
すえにすゝ貞和五年四條河原にて新座本座の田楽を興行す夫より
猿楽をうちあそむ舞出せしより終に田楽の衰へ行しやとおもわれ
より或人云田楽はもと高麗より出たりとのこととては舞の始より
てこれハ是も田楽の名残ありて
念仏踊の舞しつゝさうし

時守山光山寺 同所よりまゝ三丁程南にあり一向宗よりて

端坊に属す永祿七年の建立しして開山ハ釋了春といふ了

春ハ京師の人よりて流浪し武田將監と名なりし也此より

本尊ハ阿彌陀如来なり

高登山楞嚴菴 奥玉江坂口にあり臨家の禪林しして洞春

寺に属す相傳ふ初め阿武郡山田村水舟にありしを慶長

の中頃當所より遷して再建に本尊正觀音ハ佛師大仏の作し
て開山を芳室秀公座元和尚といふ當寺制札左に寫に

禁制

楞嚴菴

於古仲叙何年島より

依取竹ありし

叙生しし

たし條々禁制しし是れ遠紀に書きたる

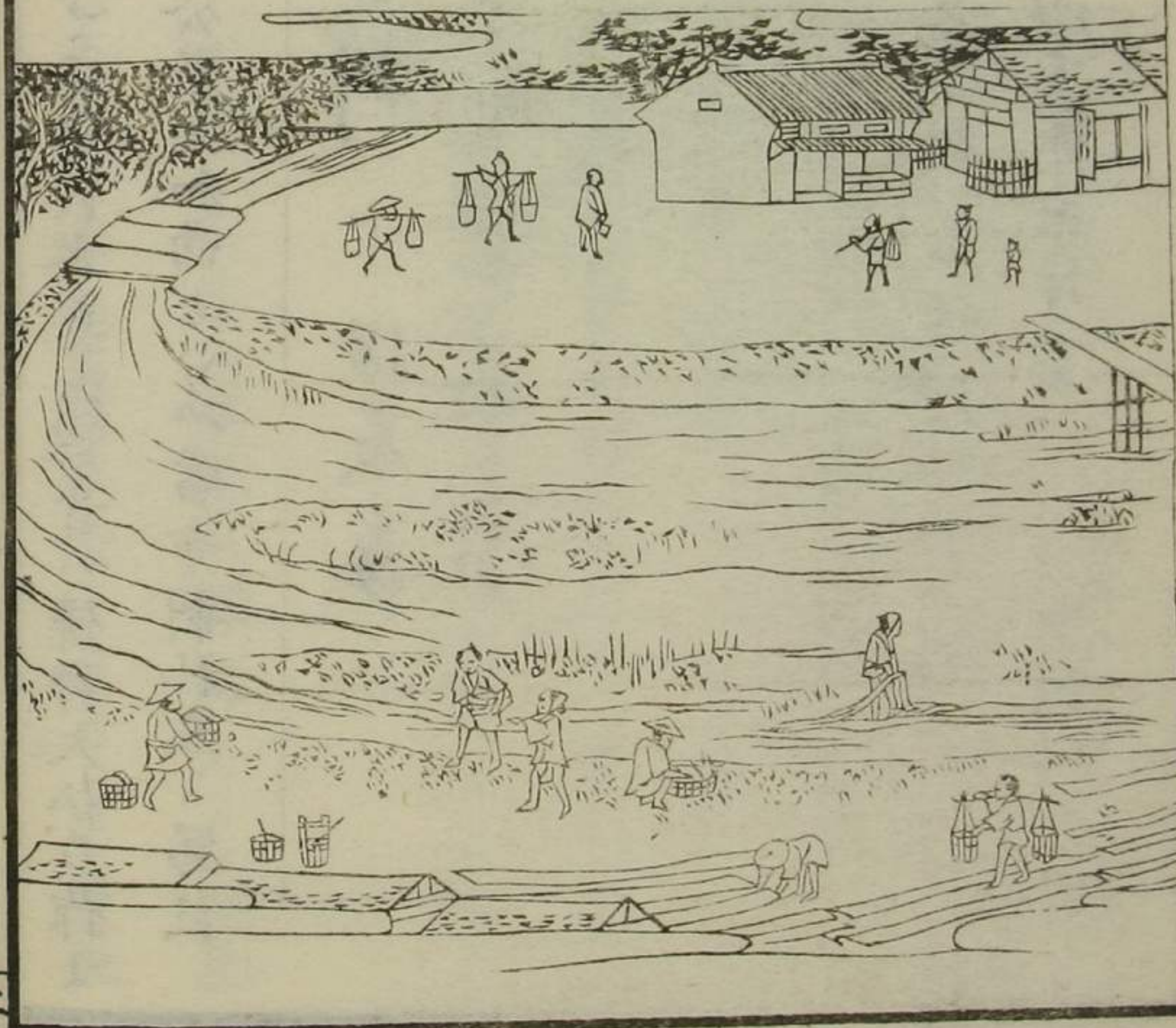
てし重ぬ殿科志也仍中記み候

寛永七年六月下

玄叟以

玉江晒場

水正北こまこり山田村
 をへて此の流に於て尤
 清のこりて四時のち
 ちく田能やさきす麻布
 光さうもいん晒を
 ここの業はす市の中
 ちより近所ををより
 持てこりて日あはれハ
 たり



金輪寺 同所さうり場より二丁程北あり

侍山 ヲモカケ 今粟屋氏下やきの山ちりと世俗のいひをて行く所ちり

泰巖公重き御由緒とて粟屋帯刀と賜ふとあるあれと證文見
 あらうに古くより云侍山の豊浦ちる生羅村の内にある山をいふ
 ちりていされと是所のせしむるは是もさ阿武の松原の條も
 いひさうら如くたれいひさうらあれありたり

名山雜記

侍山 能因歌枕云 長門

今按て生倉 倭名抄伊久 俗云伊久羅 とりて所あり山の形不ニ似たり
 遠く見渡すに山姿羨うて愛するに堪らる俗に侍山形

新編 歴代 諸藩 片断

山西様と通してとりわたりけとかうらと仰るるやうに
と其義違へり形山といふ其き謬なり

夫木抄云伴山 長門 或云因幡 藻塩州等の諸抄も伴山
長門とあり

祐舉家集

いかにとてこそまうものを恋ひのひ忘れぬとておぼるけの山

は歌のてくはたけの山 因幡 然但夫木抄伴山の哥の内

よ 祐舉 いさよ をも引用ひより然ればわたりけ山もた

まけの山も同一所なり

六帖

月さそふ伴山のさうけよみ秋のこゑいてけくね姉も 坂上良女

永久四年七月忠隆家歌合

藤原為忠

夫木

波のほろ面け山の月さそふ心もせよりつらねるる那

櫻江暮雪 八江菽八景の一にて尤風光を貯へり名もおみ

春の櫻江打霞にて水の翠の春と争ふ吹嵐す白水あふりに

暑を日それては椿山の鐘乃音よ夜のいそぐ更なるをねとるき

野分の風の冷ましく立て繩手往来ふ袂を襲ふ渡守を呼は

ふる急ハ深雪の中へ埋れて面影山の姿のこ所得白なるを

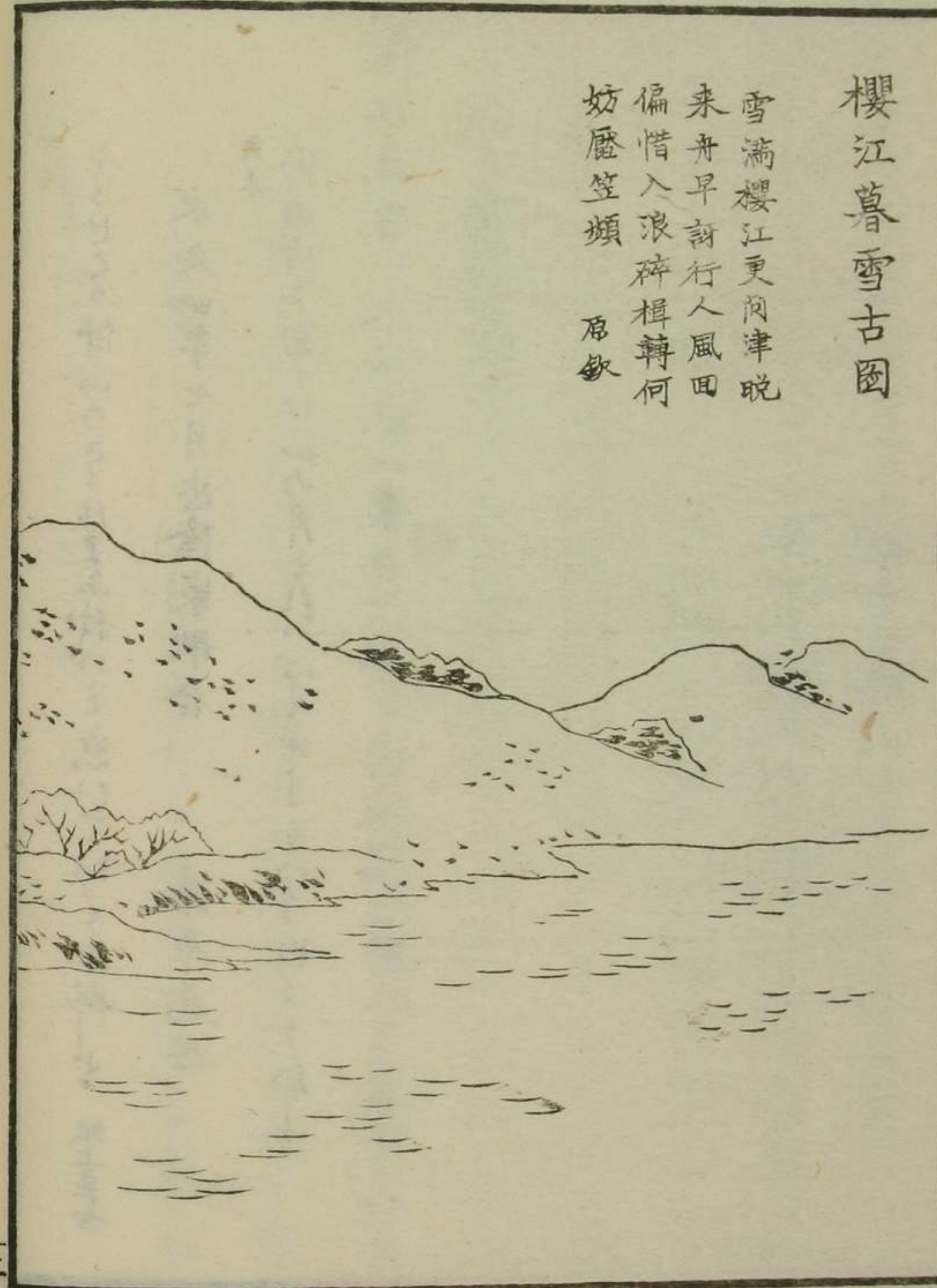
まこと奇なりとすへし市中の騷人あそび所とめせり

十六

新編 歴代 諸藩 片断

櫻江暮雪古園

雪滿櫻江更雨津晚
來舟早訝行人風回
偏惜入浪碎楫轉何
妨歷笠頻 原欽



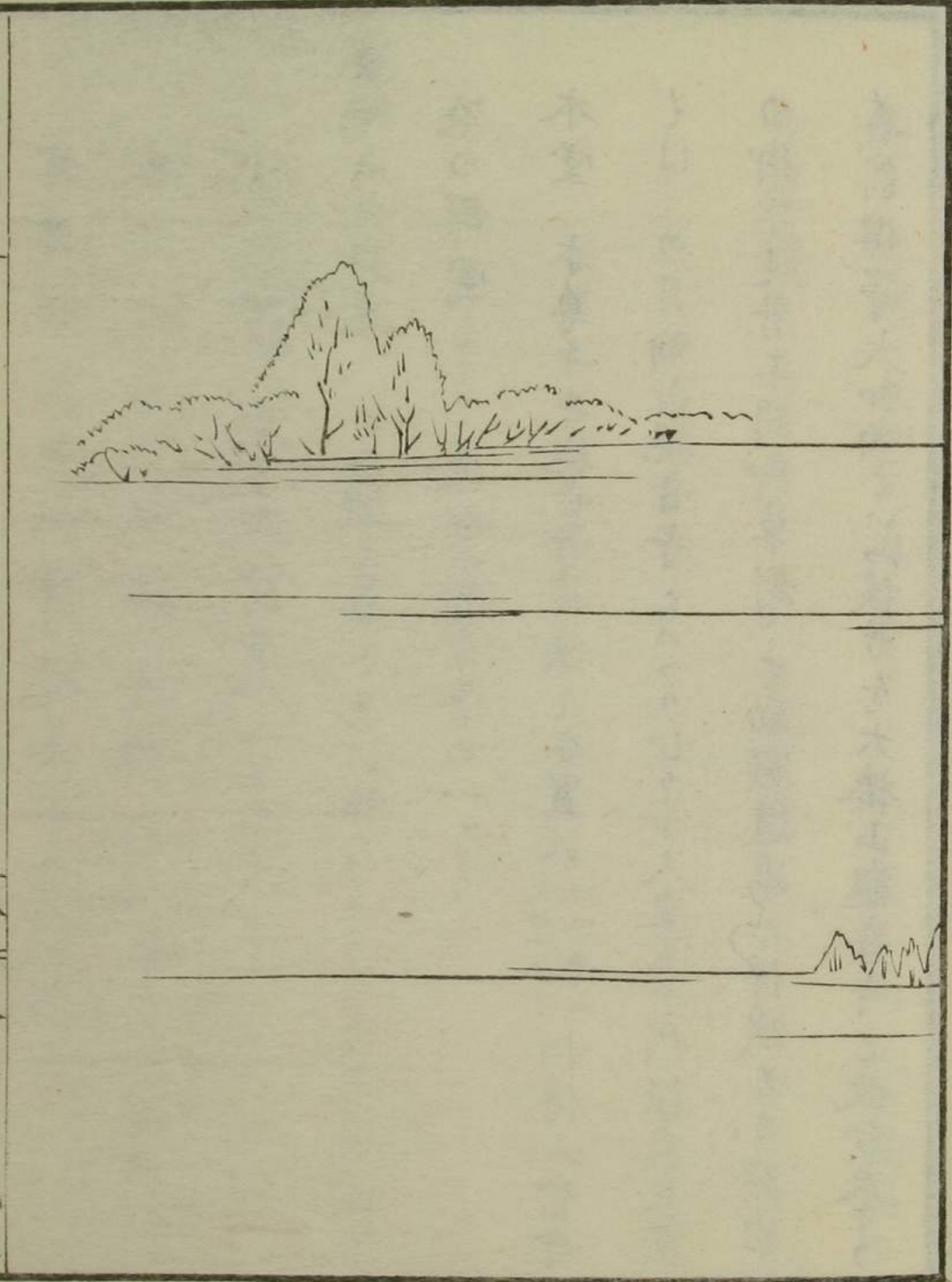
二二
三三
四四
五五
六六
七七
八八
九九
十十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

あらし雪の

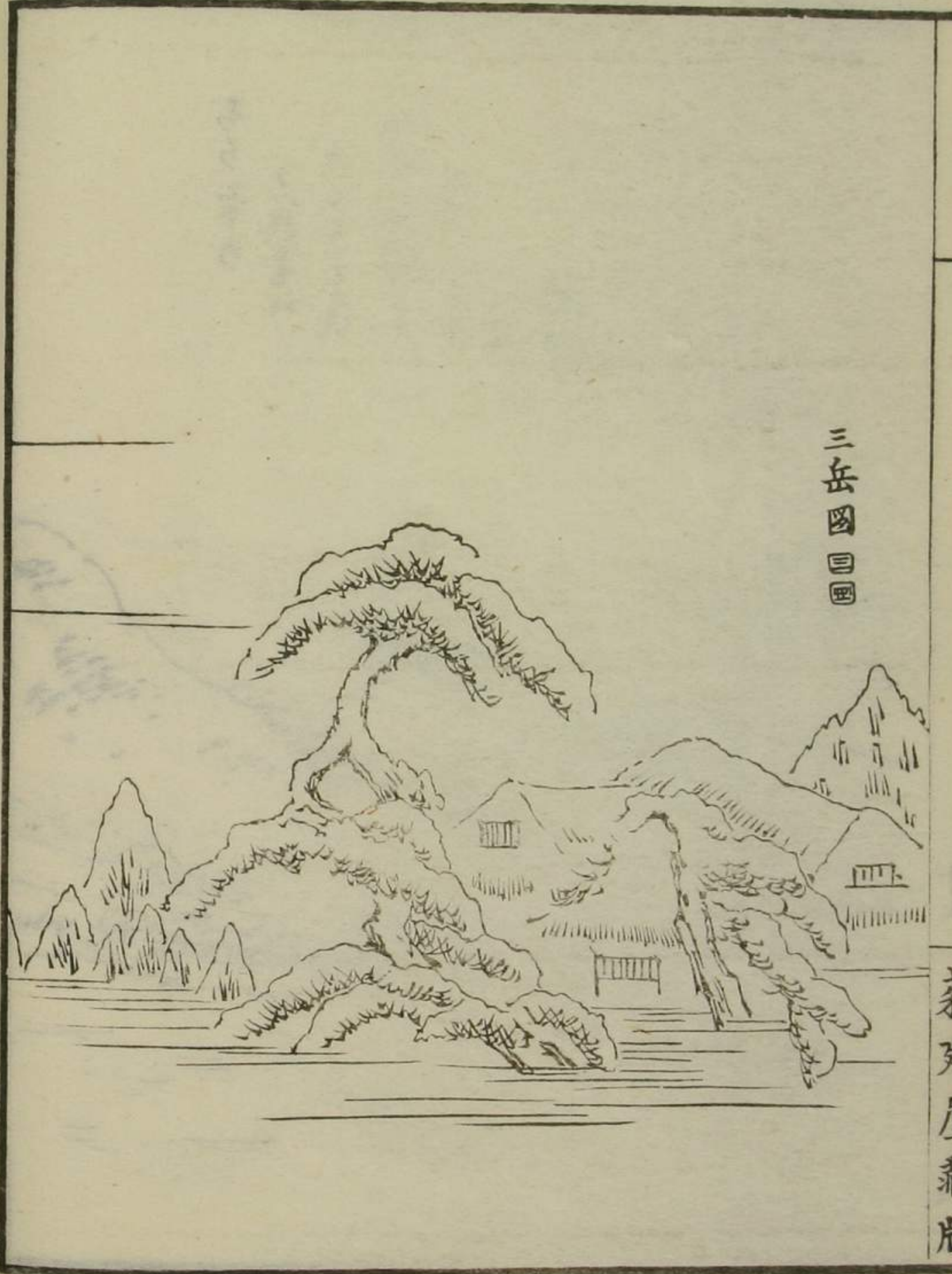
夕れをい
ほららたれ
ほのほろけで
ちろくろそ
とろろ
春貞



十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十



十八
上
火
西
屋
載
反



三岳圖

新
夏
屋
載
反

三

雪滿櫻江更問津 晚來舟早訝行人
風田偏惜入浪碎 揖轉何妨歷笠頻 原欽

白雪の夕れをばささるる花はのまみけてちるうとを思ふ 春貞

靈椿山大照院 元ハ觀喜寺と号し櫻江ヨあり京師南禪寺

派の禪園ヨリて款臨家三ヶ寺の一なり

本堂 本尊千手觀世音菩薩を安置し天竺仏といひ傳ふ相傳ふ當寺

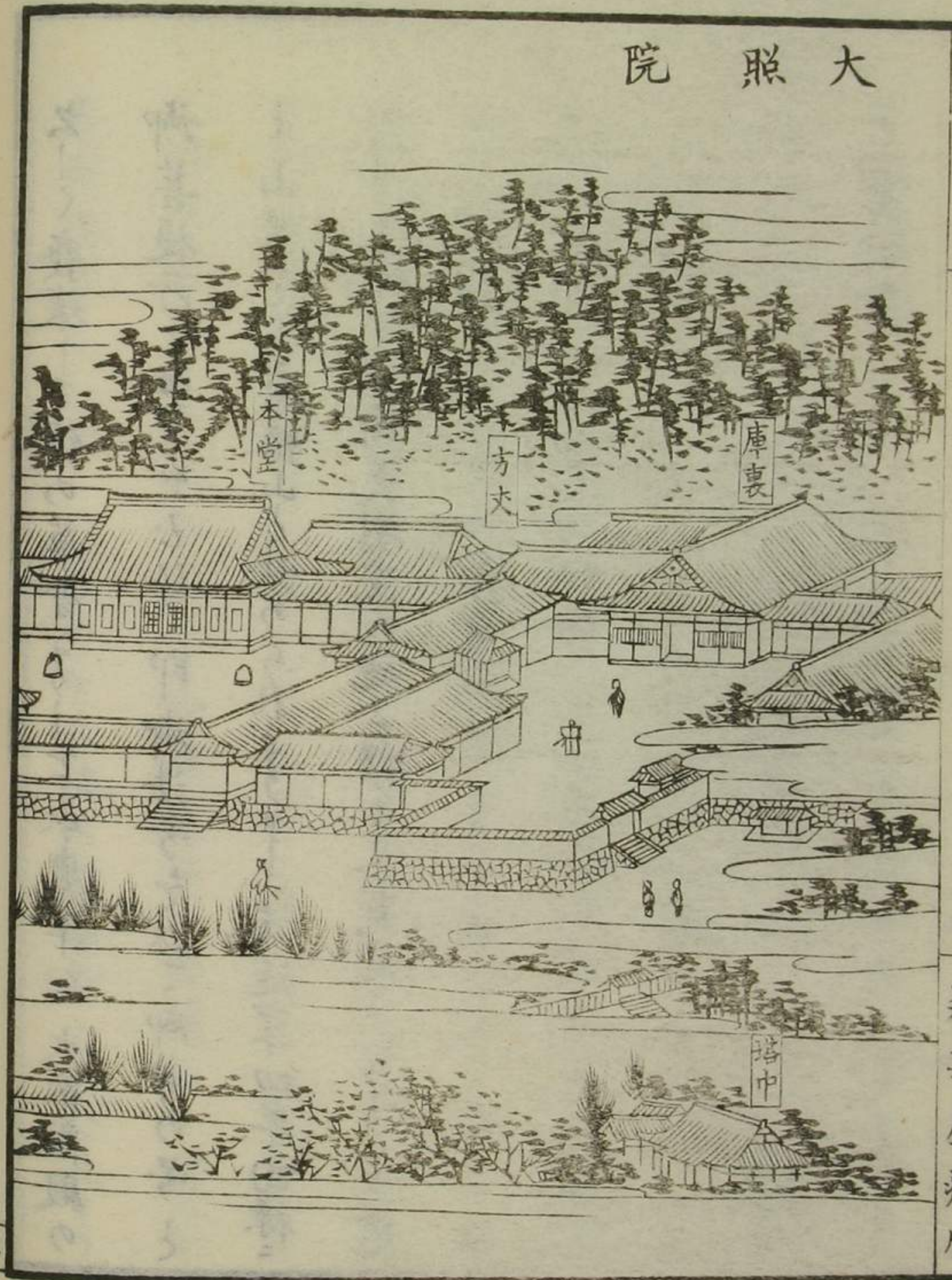
そはめ月輪山觀音寺といひりむろ人皇五十代桓武天皇

の御宇延暦年間御草創して勅額道場の佛域ちり開山を

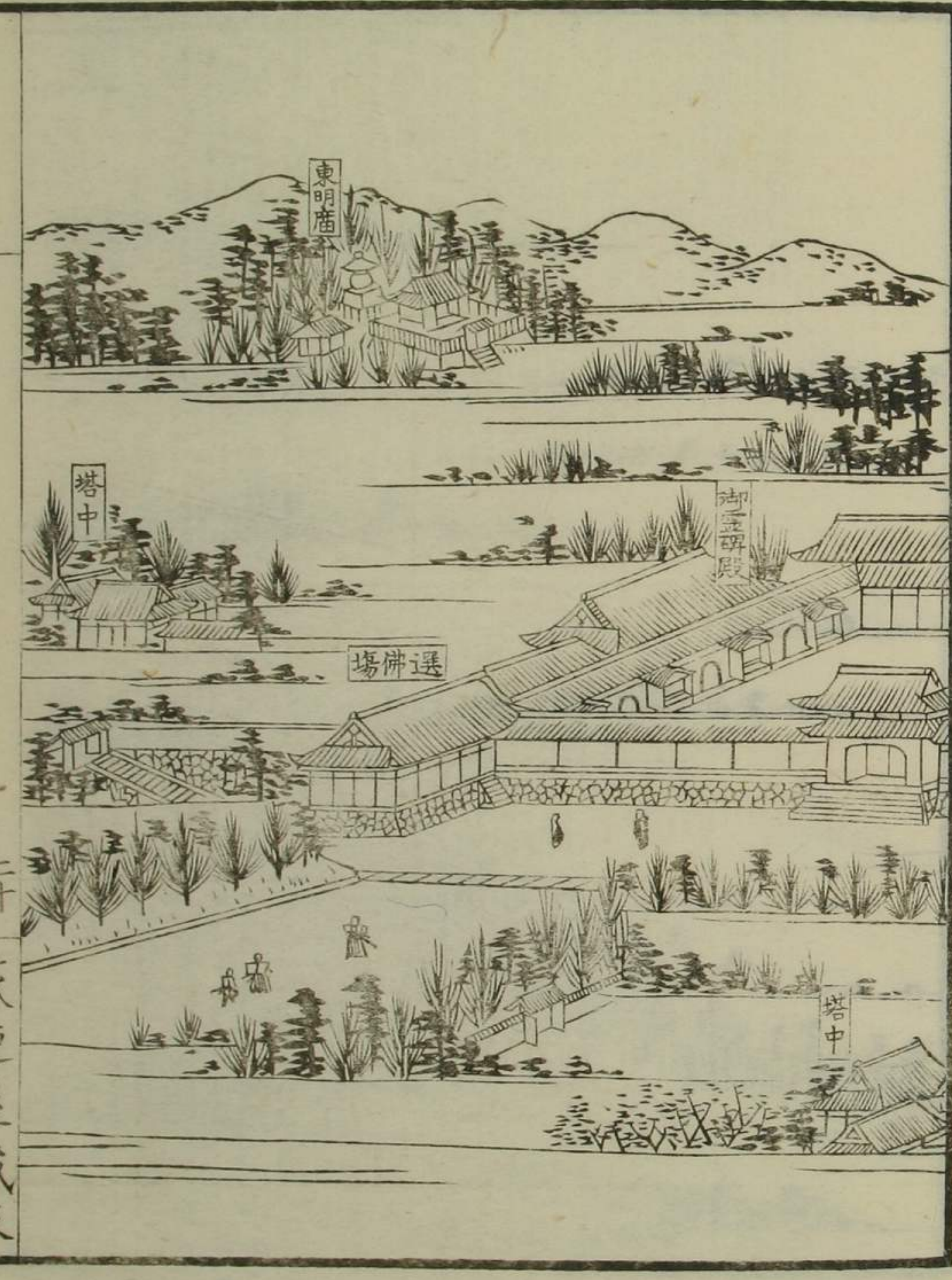
義翁傳等大和尚といひ後号を大椿山觀喜寺と改む夫より

久く廢壞して終の草舎ありを承應年間大照院殿の
御菩提所と定させむひて即御法号を以て御寺の号と
し山号をも靈椿山と改められりや後延享四年田祿三
かりて須史の間天樹院の地に移る又寛延二かりて當
所へ御再建ありて伽藍堂宇昔よりも廣大なり即て中
興を南禪言如圓尊和尚とよりまると曰當寺を大椿山
といふ濫觴いむる此山の頂上より大椿樹周圍六尺あり
餘き古木ありて夜毎に光明を顯せり是や椿樹精神
の靈驗著りとて一叢祠を管て山の中央に祀り奉さる

大照院

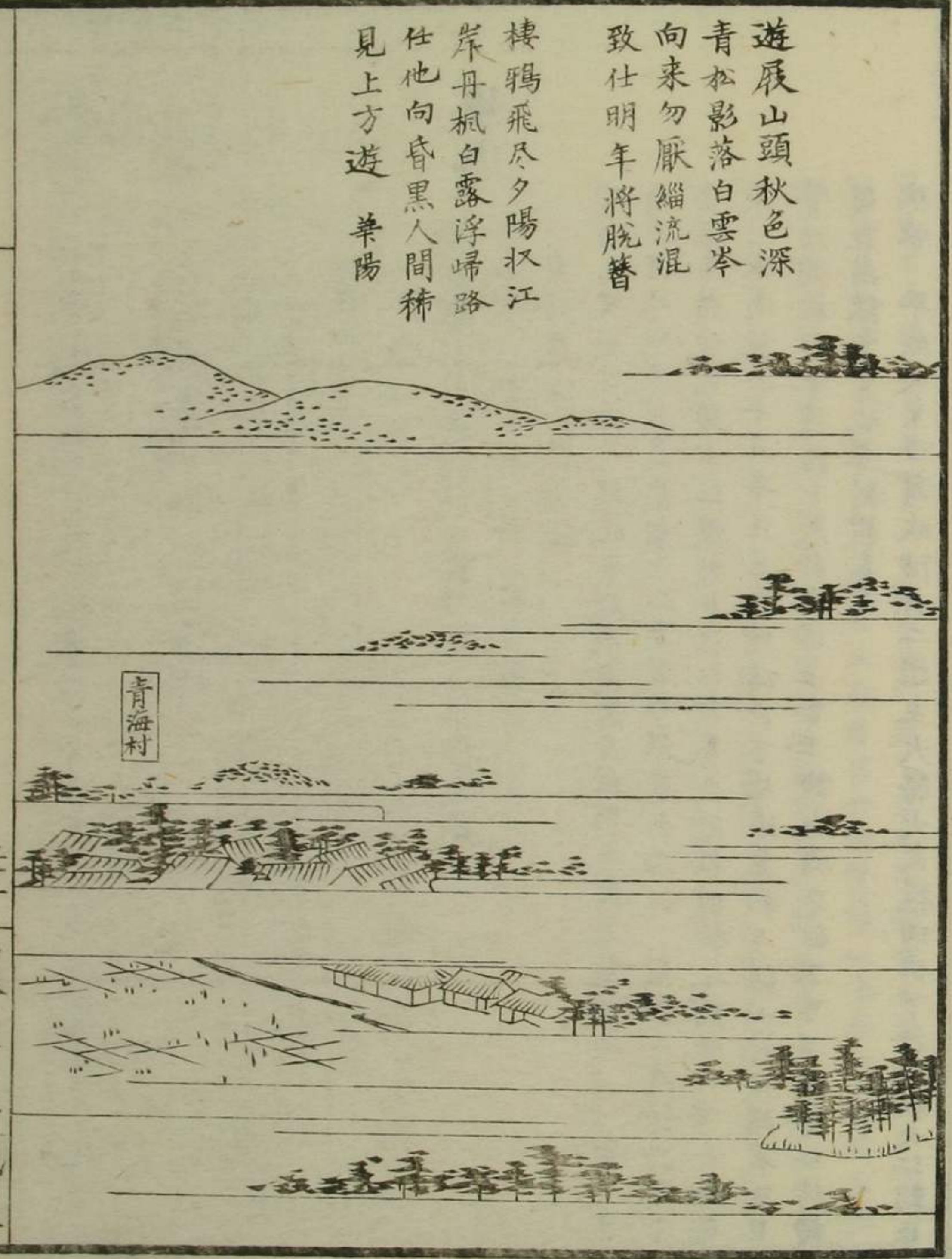


大照院
本堂
庫裏
方丈
塔中

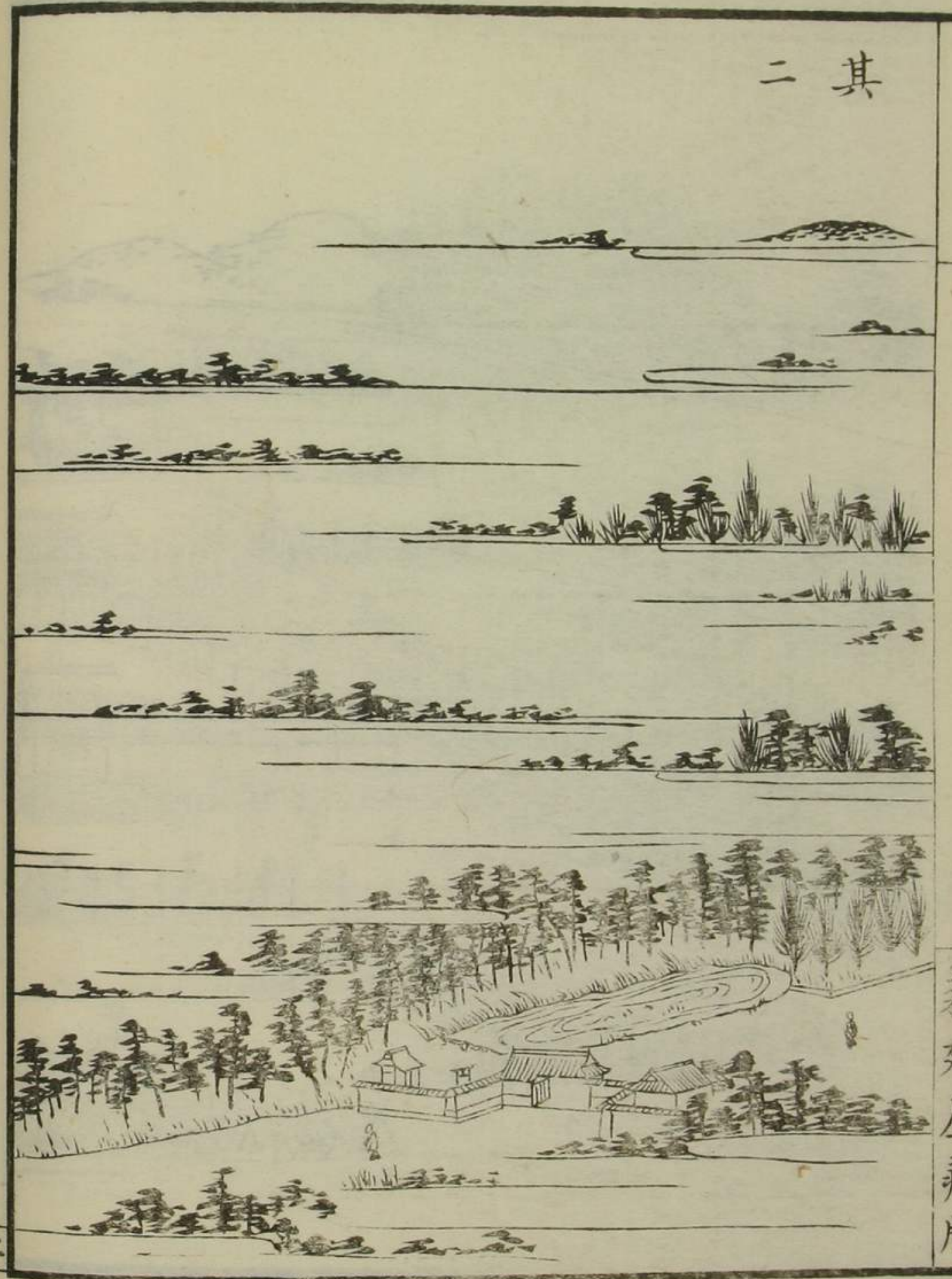


大照院
東明庵
御講堂
佛場
塔中

遊展山頭秋色深
 青松影落白雲岑
 向來勿厭緇流混
 致仕明年將脫簪
 棲鴉飛尽夕陽收
 江岸丹楓白露浮
 歸路任他向昏黑
 人間稀見上方遊
 華陽



其二



青海村
 遊展山頭
 秋色深
 青松影落
 白雲岑
 向來勿厭
 緇流混
 致仕明年
 將脫簪
 棲鴉飛尽
 夕陽收
 江岸丹楓
 白露浮
 歸路任他
 向昏黑
 人間稀見
 上方遊
 華陽

則鎮守神祇園社是（さ）れ（の）事（に）よりて山号をも大椿山と改めり

開山義翁和尚像中の古銘

建武二乙亥十一月戊子朔廿一日庚午入滅後百十三年始而奉造工
于時文安四年丁卯五月廿二日記焉即塔建立文安第六龍集己巳秋八月
一日作事始之同廿九日造畢則時奉安置者也

住山比丘

前圓覺千英更祐俊 奥州人也

經庫

御經數卷を藏に内ニ觀光院殿の御本像
を安置に脇ニ掲る所の板の銘をのす

重修靈椿山經藏記

寶曆乙亥歲靈椿山經藏重修成矣蓋其成則先侯之志願也 （中畧） 廟之西
南元爽之地隆然負覺園十二步者乃經藏也而即 先侯之遺像於其中
安置焉朝服冠纓正位儼然日夜以奉香火延報罔極之德也 （中畧） 是歲安
永乙未逝後二十五年正忌近侍諸臣不堪追慕相与謀而欲作經藏記且
贊功德叙行事傳諸千歲矣迺求 臣言 臣謝老病不敏不可 臣亦嘗以侍讀
因免病謹書其概畧副諸左云
伏惟 平城天皇苗裔故防長二州主大膳大夫從四位下行侍從大江朝臣

二

宗廣侯享保二年丁酉七月六日誕生長州萩 泰桓侯鍾愛之肇賜小字百合
助君別佐澤氏 君生美如珠玉五歲眉目如画鬢髮如漆聰慧敏速而猛
也人仰而相之曰是此 兒君有奇骨若非龍駒則鳳雛非庸人也人望而畏之
如十歲以上之人也是歲 泰桓侯述職在東都乃顧左右召史曹主事乃美
興詮 （後廣） 曰昔慶長四年大照侯行年五齡着袴之時 神祖使榊原式部
大輔賜長袴而着之是特例也其後 （中畧） 今改例使汝猷長袴十一月六日君始
着袴十二年丁未正月朔日 泰桓侯賜諱維廣 （中畧） 寬保二年壬戌八月野州
刀祢川決口衍溢諸州民居漂溺道殣相望 朝廷憫恤之使 侯與役修治
焉蓋大役云乃得竣事而奉承其大役不亦皇天眷顧所及乎有司等因相
与謀而勒碑於武州崎玉郡鷲宮之祠以貽不朽也 （中畧） 四年辛未二月四日
不幸短命而薨國春秋三十五葬于大照院 先塋之次法謚 觀光院殿天
倫常澤大居士云 （中畧） 侯為人槐梧秀偉眼目射人性深坦而有若城府而能
寬綽而容納始則聰明英斷聞善若驚疾惡若讐中則早知名於天下云 （中畧）
贊曰 皇哉 遠祖 平城帝裔昭穆繁昌茲禘茲祭束帶儼然威儀繫肖
祖宗之靈共安新廟南面如在四方具瞻風軌德音景行尊嚴覆天之恩既
足既昭祚胤万年無殄無穢

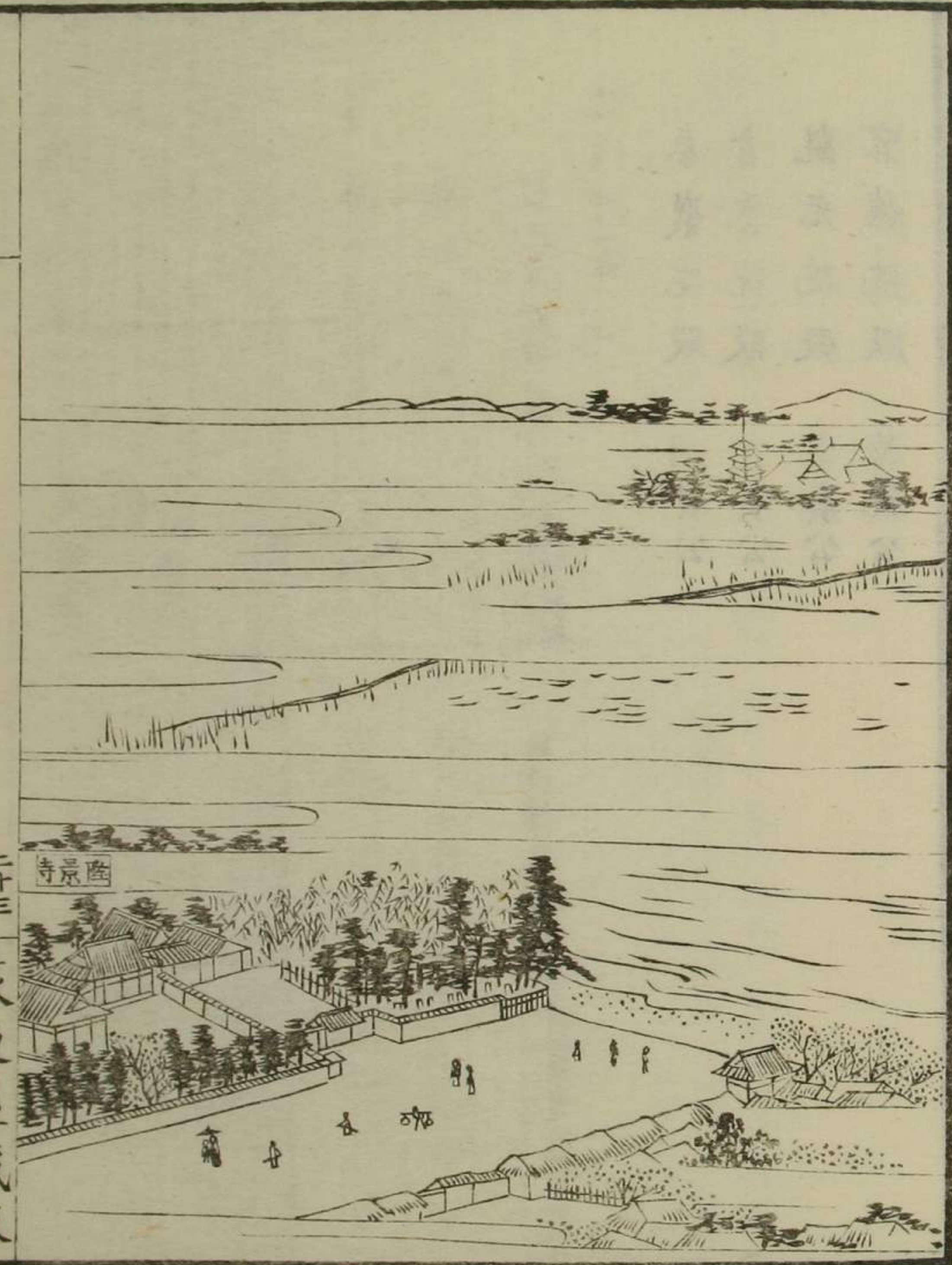
安永四年乙未春二月

長藩 明倫館祭酒 臣小倉實廣 彦平謹撰

長藩 明倫館講官 臣艸場安世周藏謹書

二十二

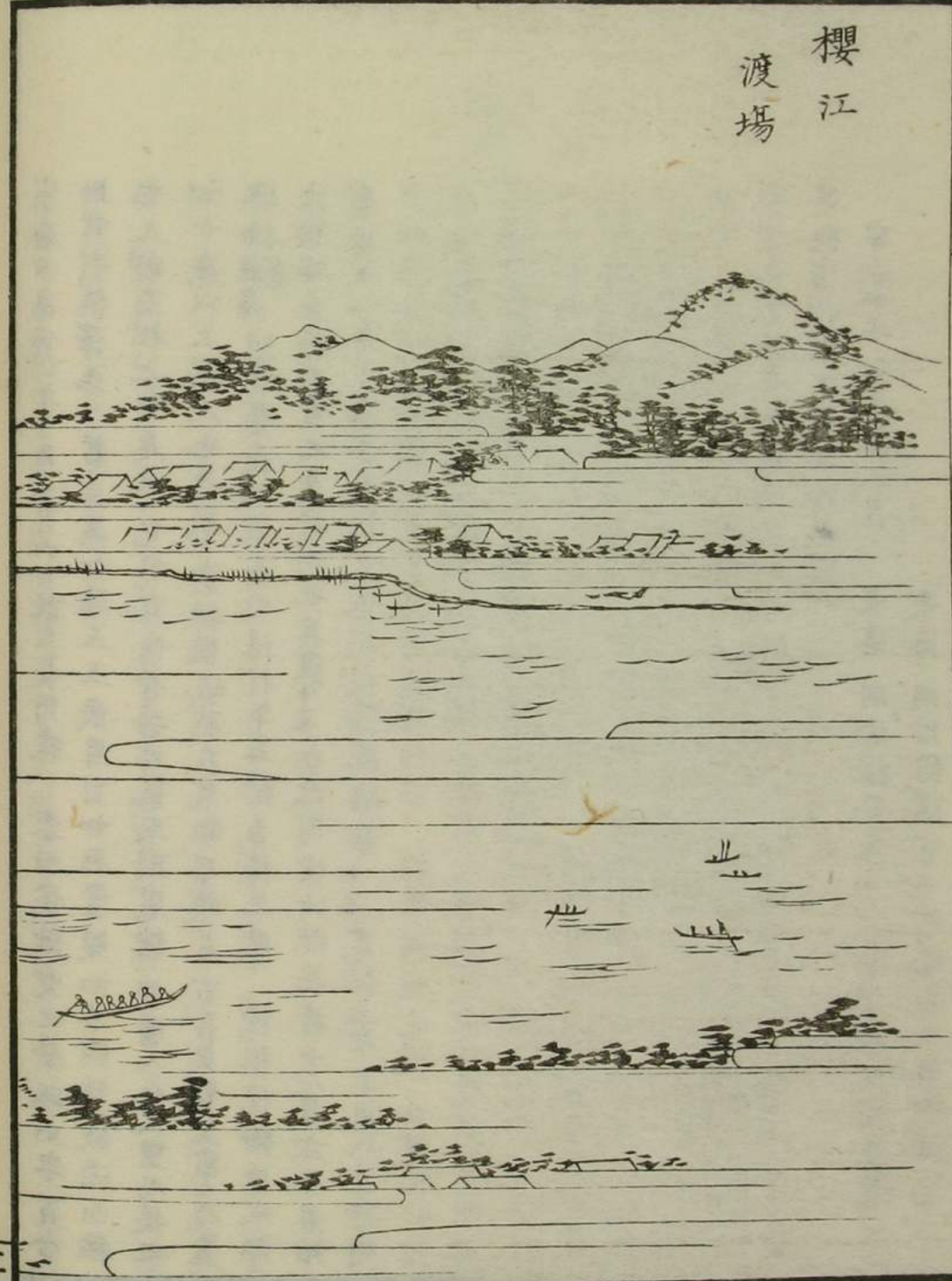
長藩 明倫館祭酒 臣小倉實廣 彦平謹撰



寺景園

二十三
 大
 西
 屋
 城
 坂

櫻江
 渡場



永
 延
 慶
 長
 治
 元
 和

大照公御廟殉死廟所牌名

大照院殿月禰紹澄大居士

孝安宗忠居士 慶安四年辛卯正月九日 梨羽頼母祝云

三養安宅居士 同年正月六日 小川兵部少輔就克

華亭堅固居士 同年正月六日 信常在京亮就実

傳外以心居士 同年正月六日 山名大膳就行

華岳惟信居士 同年正月六日 村上監物就正

惟忠玄功居士 同年正月六日 祖式主計頭就好

梅心專保禪定門 同年正月十二日 久保五郎右門尉

和仲淨春禪定門 同年正月九日 梨羽頼母臣山本亦兵衛

歷代御廟

泰巖院殿 綱廣公

青雲院殿 吉廣公

觀光院殿 宗廣公

容徳院殿 治親公

梨羽頼母臣山本亦兵衛

清徳院殿 齊熙公

崇文院殿 齊廣公

釋迦堂

御寺の後山にあり此堂宇ハむろ一當山北谷に大杉の木一株あり之を採りて其一本を以て修繕せし所ニ則觀喜寺時代より連綿して朽ることなく本堂釈迦如来ハ坐像にして内丈ケ六尺余是所謂椿木を以て彫刻しうるものありとそいつに傳へたる其胎中の古銘左に云々日本國長門州阿武郡椿郷大椿山觀喜禪寺佛殿本尊奉修覆本師釈迦如来

大檀那沙弥源勝

住寺第五十七世 法孫比丘祥昭 奉行優婆塞父持 大佛師覚賀

三好氏

康永三年甲申十二月廿五日立春日

當山十景といふハ

圓通巖

山上觀音堂をいふ

東明廟

大照公御廟

白櫻嶺

當山西の峯

華嚴峯

當山南峯

白鷺池

本門内左の池

翠竹園

南の岳

丁字水

門前の流水今古川筋といふ

小松江

まてて當寺の近辺を以て蘇名所の一なり

選佛場

禪堂を云

梨羽頼母臣山本亦兵衛

渡香橋 中の門より下通りとあり
今繩手より橋をくぐり

回廊の樓門1掲揚所の扁額

空色

禪堂1掲揚所の

選佛場

此外聯額の類多し
畧して掲げに

高月院 同所御位牌殿の後あり同寺カ支院あり
開山鶴天慈松和尚あり
相傳小美祿郡青景村月溪院を引て号を改む元祿三年の

建立あり

清正院 同所御本門内の右あり同寺塔頭の一ありて開
山ハ高月院と同し

相傳小美祿郡青景村慶久菴を引て元祿三年建立あり
所あり初め清涼といふ後よ正よ改む

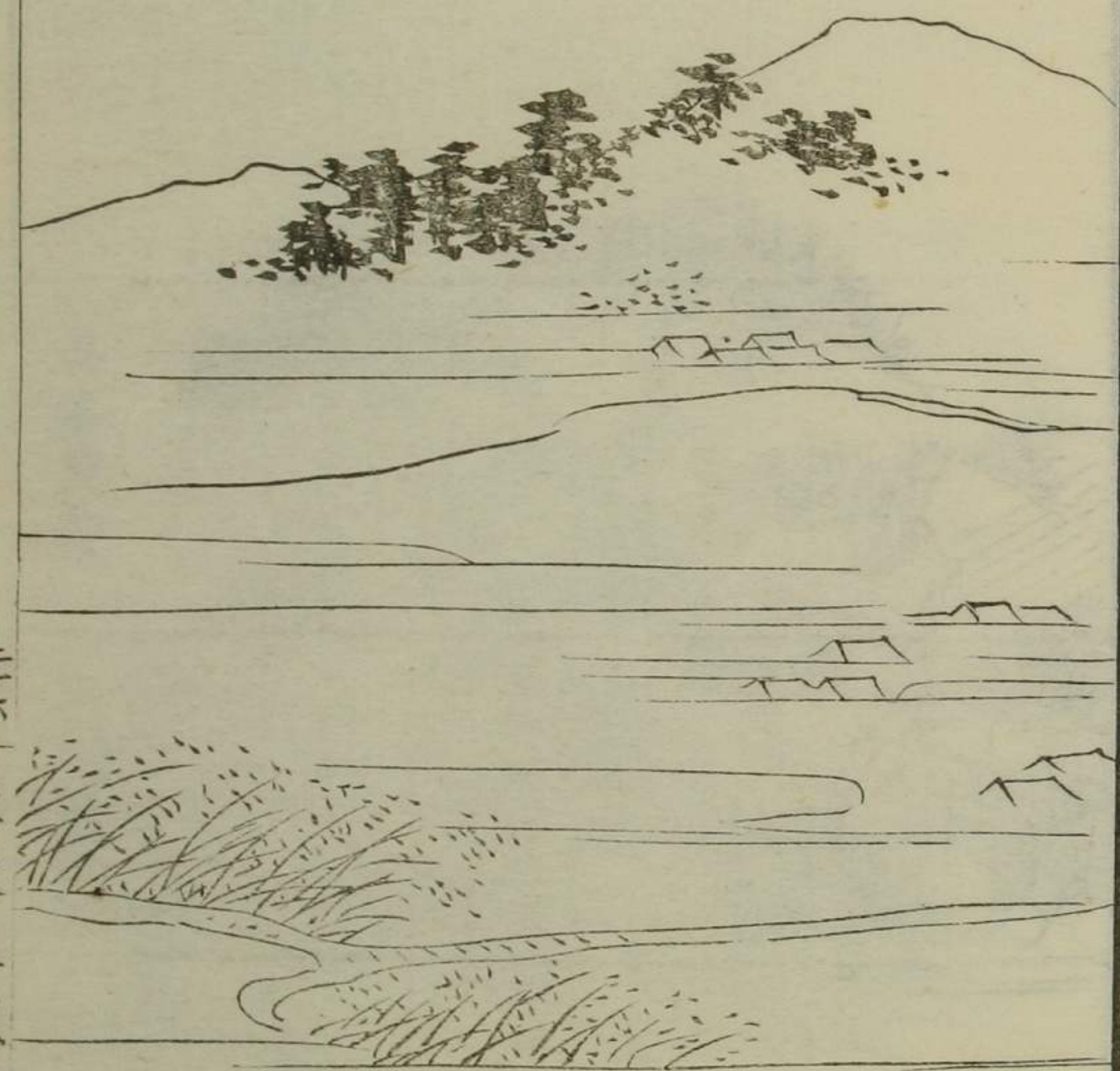
道樹院 同寺の塔中よりて裏門の外右あり

相傳小厚狹郡宇津井村實際寺を引て号を改め元祿十年
建立あり所あり

小松江晚鐘 同所をくぐり八江萩八勝の一ありて風景黄昏を

二十五
三

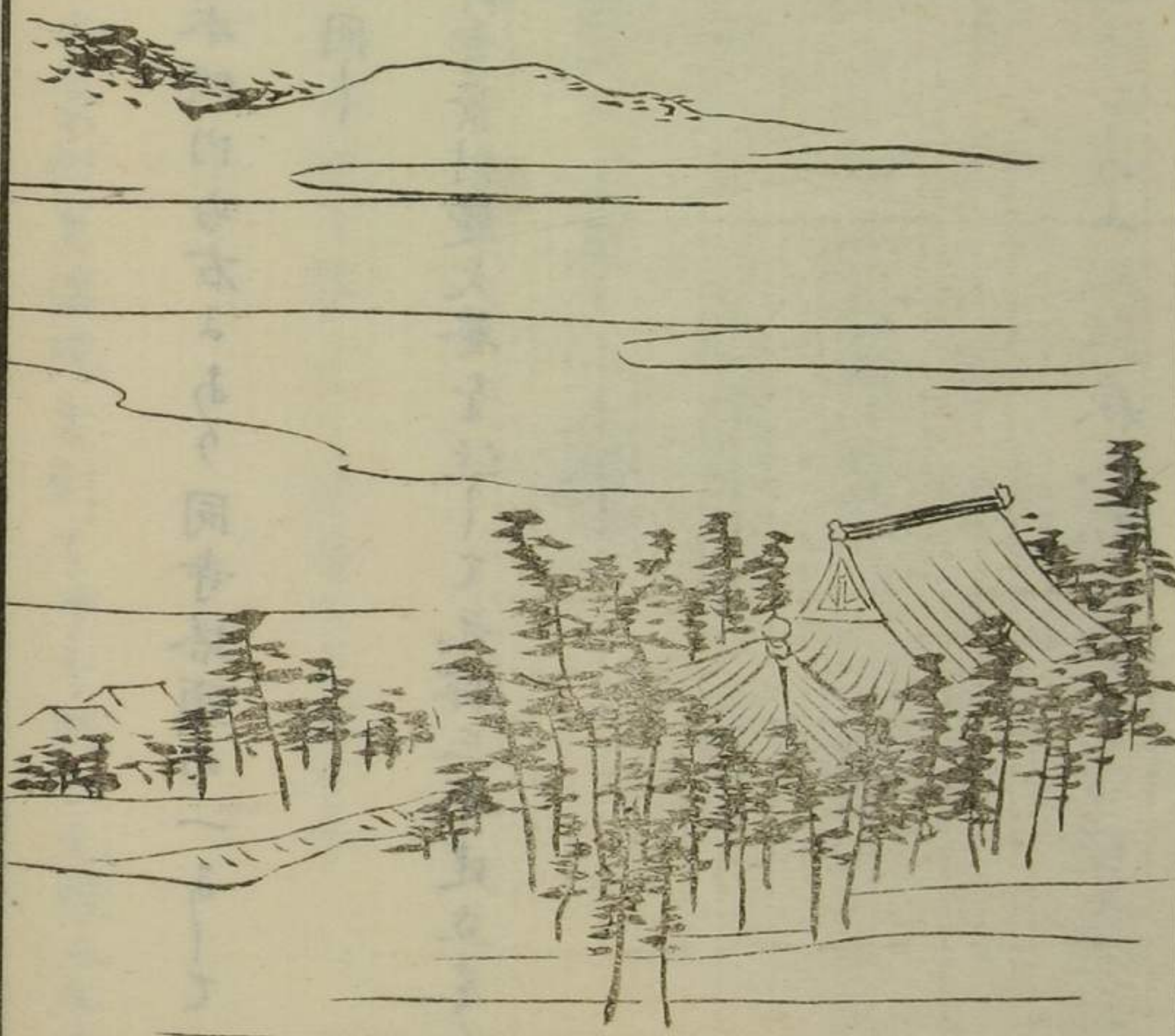
断霞夕繞
峰深寺度
疎鐘漫々
春江水平
吞樓外松
原欽



三
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

小松江晚鐘古園

山のこゝろ
うけと
きよらうて
おのつらよ
入おのつらよ
春貞



三
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

香鑪



二十七
香鑪
藏板

香鑪
藏板
藏板
藏板

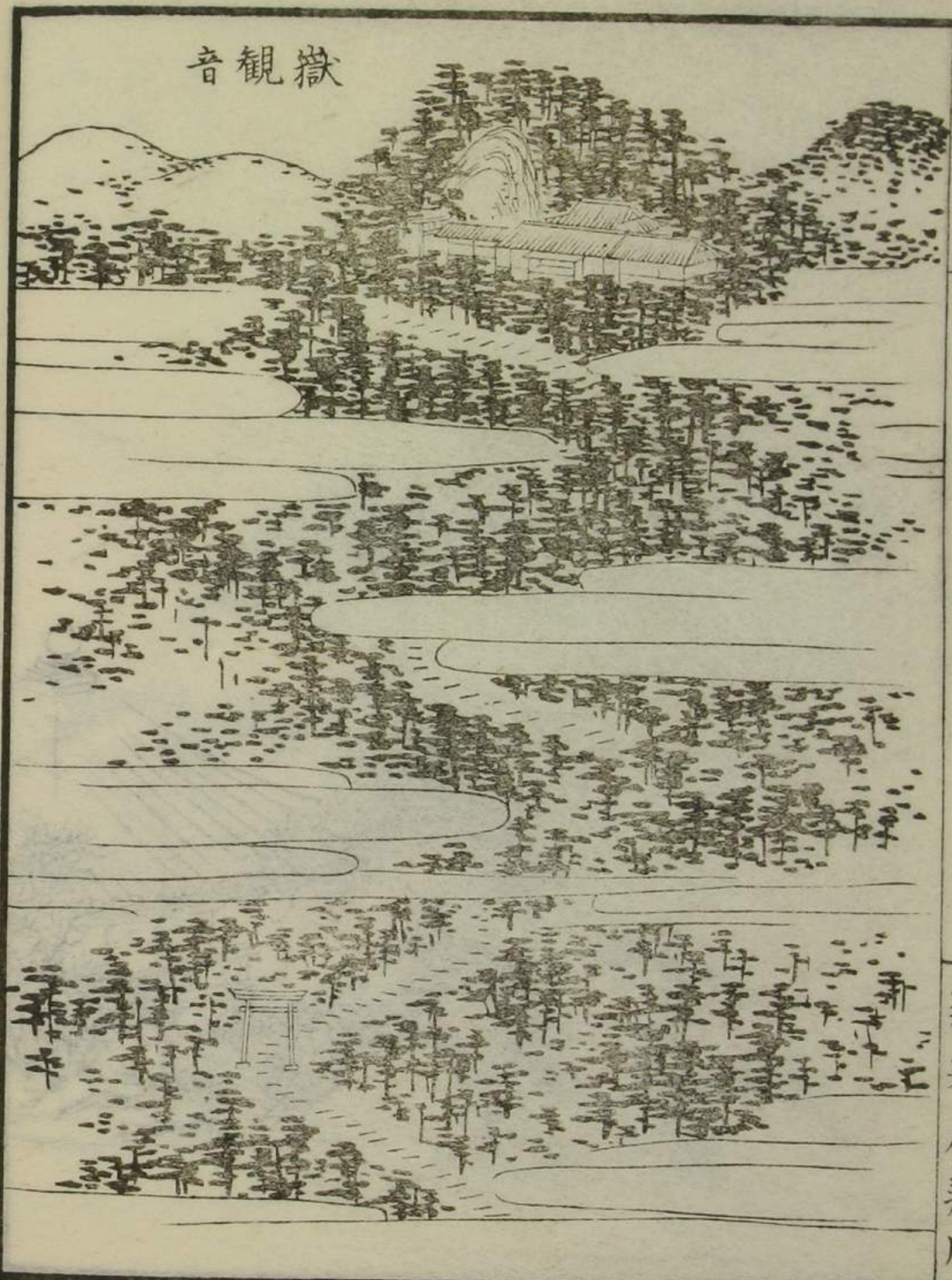


三岳圖

三岳圖
藏板

二

音観嶽



三
秘
屋
藏
片

尤も佳くす

断霞夕続峰 深寺度疎鐘

漫々春江水 平吞樓外松 原欽

山のそとありてきまはの松よりつゝ大おのりよ 春貞

古川筋 同所繩手架る小橋の流きをいふ源ハ川上河より

て螢火山の麓より霧口をよぎり南明寺の下水溜より大

谷長藪の中をいそぐ濁り淵 今椿社一の鳥居
の前小流をいふ より小松江通り大

照院の前より流き落ちる川をいふさて古川といふを今の太川出

来さうり以前よりあれハ此称有とより或人云世より古川筋

二十八
三
秘
屋
藏
片

といふ説あれど、さうりそハ此橋本川の往昔よりありて川幅も今よりハ廣き所ありて大照院本門前より迄ハ入廻りてみる橋本川の流さるうさう銭御寺御再建成て參詣せむとて新道を作らせむよりかの本門前より今の如く御開地とさうりさうりの之其後田圃へさう水派を付られて御寺の前通りへ切ぬれさうりされハ此御開地の所ハ昔の大川のうちかれハ猶穂毛ホノケの残りさうり名さうりへ古く螢火山の麓より流さ出さるもあらさうりさうり慶安萩画図を閲ても明らかなり

光明山西法寺 青海よりあり浄土宗より龍昌院に属す

開山ハ心蓮社光譽良間和尚より享保年間の建立なり

本尊阿弥陀如来千体頭長三尺五寸の座像 脇立觀音五百体頭長二尺五寸の座像

地藏尊頭長二尺五寸の座像 阿弥陀如来百体頭長二尺の立像 觀世音菩薩百体頭

長二尺の立像 地藏尊百体頭長二尺の立像 三尊体百体頭長七寸の立像 の數多を安置す

相傳ハ元祿の比萍水浮雲の僧来りて千体の靈像を彫刻し則當寺を建立せし所より世人當寺を号て千体佛と云ふ

縁起左よりあり

夫當山千体佛之言尊像者其以前一人之有沙門阿武郡椿湖景山之地求草庵結千体尊像之業大願而漸遂成就維持元祿七甲戌歲從初春室永三丙戌秋九月迄凡十三箇年積星霜而創立莊嚴不殘為成就者也享保七壬寅二月十四日本堂悉建立并入佛供養等在之伏而願者千体佛

二十九
三十九
四十九
五十九
六十九
七十九
八十九
九十九

夜三日よく終れるといひ傳へり夫より世々連綿して萬治
年中泰巖公の御時御修營を加へさせむひて本殿樓閣
弥備りよりまゝ神明宮御産土神によりて當社をもち御
遙拜所となせしめむは是當社の規模とせり

まゝ云當祇園社ハ往昔入皇九代 開化天皇十五年の春南
山の嵩く夜あり瑞光ありてやむときまゝ村里のまじ怖驚き
て直に是を廳に訴ふ官吏即て山にゆきてこれハ巖上り老
翁現れむい宣むいせ々々ハ我ハ天の下國內をまゝく守護
せり素盞鳴尊之此地山海の景色殊勝なりて尤邊要の樞地

ちり我當地に垂跡し永く万民を撫育すべしといひて山の内
より入る夫より晝夜の差別をいふに兼祠を営みて幣帛
を奉り尊敬怠惰ちりたりまゝ云延喜の御門の御代逆髪
の皇子故ありて當國當所は左近むひり時此山は昔より生茂
りて大椿樹周圍七圍に餘るありてを切らせむひり
れハ即神の崇りしとて夢中にて告て宣く我ハ此地を守
る所の神あり大樹ハ山をたもつる精神ありまゝ當國當郡ハ
殊に名木の生るる所あり今より後此山に斧を入るることを
禁はると告むひぬ皇子驚きむひり即て宮を麓より祇園天

皇と稱し奉りて尊かかるとみ称すんくし崇め奉り後當社
を分ちて大津郡瀬戸崎へ勸請せらるりあり
今祇園社是也さて當所
を椿とつくるハ此時より名つけらるるといひ傳ふ又當郡ハ大樹
古木は名譽らるること古書にも多く載されハさもあるへし中昔
のころこれとわかれしをここに引たり

新撰六

ちりちりち武の郡の松板ハ唐主人もさあさうめや 光俊

文治五年二月卅日壬寅長門國阿武郡者為没官領内之間
為勸賞雖賜土肥彌太郎遠平為御造作拙取可去進地頭職
之由依有勅定可退出之由被仰云々

逆髮皇子供奉の隸人として武春守永清章實利定香信方か
といつる家ありと云今守永信方の両家連綿として子孫繁昌せり
當社御祭禮ハ九月十五日より十六日までとら其式嚴重として
御名代且流鏑馬献馬の式といつるまて春日社の例と同一市
中ハもとより近郷近村の貴賤羣集夜渡より日晴と継きて
いづく賑くへり

古棟札文左ノ録裏は伊東大炊助とあり

奉葺立長門國阿武郡椿郷多八幡宮御宝殿
右首趣者天下泰平國家豐饒殊者大檀那源正頼同
御息廣頼御武運長久御家内安栄別者御子孫繁昌
如意圓滿矣高圓普請方裁判之當郷守護越後守隆

家普請奉行上村伊豆守盛家大工塩川万六左衛門尉
瓦大工溝辺主稅允于時天正十一年九月良辰日

御當家御再興棟札

奉重造營八幡宮 万治二己亥曆九月吉祥日 造立大工引頭七左衛門

防長國主侍從大膳大夫從四位下大江綱廣朝臣

執權 榎本遠江守藤原就時 番匠主頭藤井喜大夫就定

造立奉行 國重九郎兵衛尉就久 神主正六位上守信濃大夫守藤原定久

同吏 八谷半左衛門少尉

古證文寫

奉重身巡檢令内廣瀬檢現
市後地若部

口至塚 東照殿側南邊附記
西面海邊古蹟少治古町也

右件檢現市後地令为天長地久
清和島浦市廣瀬令守身巡檢也

以安四年

二月廿日

佐伯友五郎

奉重身巡檢令社神田

令佐佐木村新田

大和江形地就江守身巡檢

り伴

元亨元年
三月十日

堀江三右

宗行 其の所武部松々

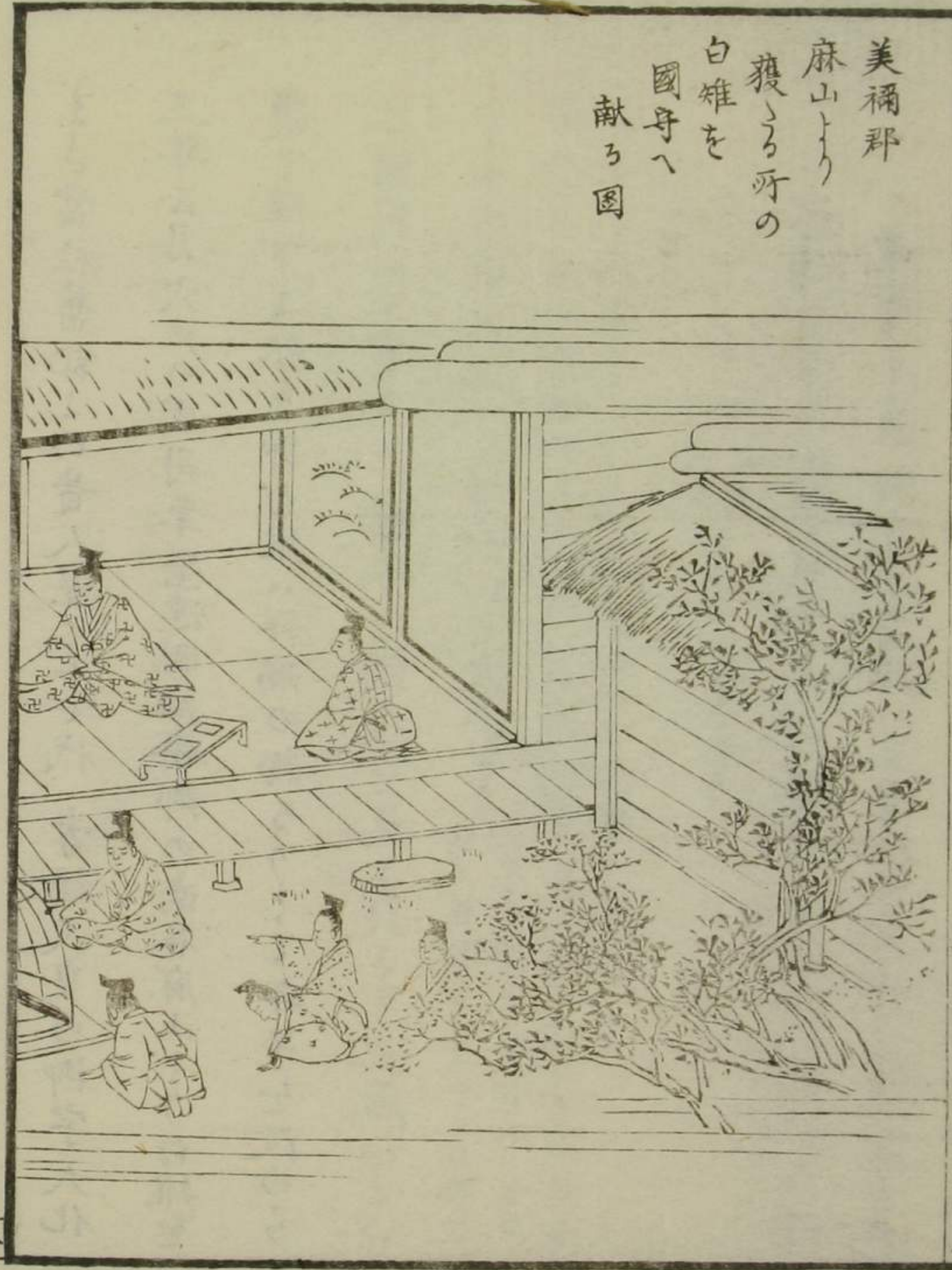
ハ情事変地事

其の所を武部松々

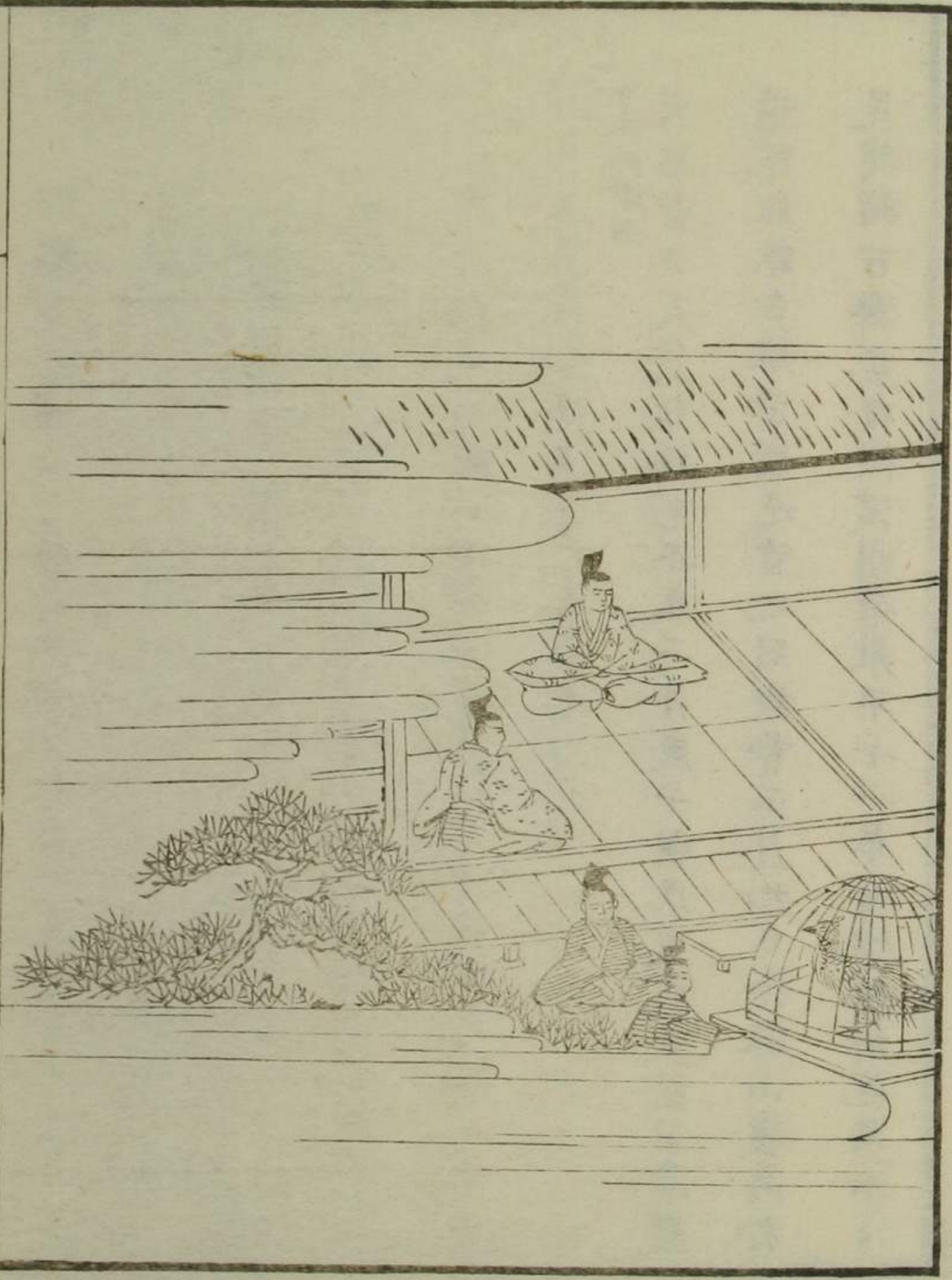
元亨元年
八月十日
河内

まゝ当社舊記より曰昔人皇三十七代 孝徳天皇の御宇大化
 五年正月穴戸の國司草壁連醜經椿郷の南谷麻山より白雉を
 獲て陛下に獻を即白雉ハ祥瑞の物なりとて年号を改めら
 せ國司も賞として三年の調役を免されたり此麻山とい
 へる山當社南谷にありていと大山なり かく傳記にハあれと白雉の
 出たる麻山ハ美祿郡なり
 麻山よりへり引書左に見ゆ因に云安永八年當郡河内村より白雉を
 出は是ハ引田方といへる役所へ納めりと或書に云へり
 名所雜記
 麻山ハ赤村 河加
 武良といふ所もあり
 孝徳天皇の御宇此山より白雉出たり是則朝家白雉
 の瑞有り最初より白雉ハ王者仁聖の時ハ則見ると云

美禰郡
麻山より
獲る所の
白雉を
國守へ
献る圖



新築屋敷成



三六
新築屋敷成

國家の祥瑞あり故に年号を白雉と改め長門國三年の調役をゆるし國司に大山といふ位階を授せらるゝとあり鷹を穴戸の境に放つことを禁まるとあり白雉を復此山へ放ちて其生を遂にめむるへ瑞物の中より羽毛の類は山野よりれちてその生を遂にめむふことハ令條にも見えたり

日本紀孝徳

天萬豐日天皇白雉元年春二月庚午朔戊寅穴戸國司草壁連醜經献白雉曰國造首之同族誓正月九日於麻山獲焉於是問諸百濟君曰後漢明帝永平十一年白雉在所見焉云々

三

中畧甲申朝廷隊仗如元會儀左右大臣百官人等為四列於紫門外以粟田臣飯虫等四人使執雉輿而在前去左右大臣乃率百官及百濟君豐璋其弟塞城忠勝高麗侍醫毛治新羅侍學士等而至中庭使三國公麻呂猪名公高見三輪君麿穗紀臣乎麻呂岐太四人代執雉輿而進殿前時左右大臣就執輿前頭伊勢王三國公麻呂倉臣小尿執輿後頭置於御座之前天皇即召皇太子共執而觀皇太子退而再拜使巨勢大臣奉賀曰公卿百官人等奉賀陛下以清平德治天下之故爰有白雉自西方出乃是陛下及至千秋萬歲云々中畧又詔而

三十一 卷五十一 尾段 反

日四方諸國郡等由天委付之故朕總臨而御寓今我親神祖
之所知穴戸國中有此嘉瑞所以大赦天下改元白雉仍禁放
鷹於穴戸境賜公卿大夫以下至于令吏各賜有差於是褒美
國司草壁連醜經授大山并大給各有差復穴戸三年調役云
下畧

修多羅山永福寺 圓覺院と号し椿社の封内ありて當社
の別當あり當寺ハ菘古寺の一負ありて満願寺ニ属し開山
を阿闍梨知覺宥快中興ハ法印快英玄長といふ
本尊不動明王ハ行基并の作りて并ニ文珠并を安ん

三

相傳ふむく延喜年中逆髮皇子當地へ遷幸せしめて法
心とありむひ一字の精舎をいとまきて念護佛不動文珠
の二尊を安んて世塵をさけむ折々浮雲の僧沙門知
覺阿闍梨此草菴を訪らひて浮世のさうも互に語らひ
終ニ一字を建てるむひとそ夫より久く廢壞して
就中天台ニ宗風を轉じると天正年間真言沙門快英法印
來りて再興せり是より椿社の別當と志々るハ則鎌倉鶴
カ岡永福寺を模擬せらむのちうとそ

湖景山西福寺 同所より東へ少く行てあり浄土宗ありて

龍昌院は属に本尊阿弥陀如来ハ聖徳太子の作開山ハ念
蓮社專譽良都和尚にて承應年中の建立あり本堂より
掲る所の扁額ハ寶鏡寺の宮の真跡ありて法皇の御冠櫓
扇よりハ中将姫蓮糸織の曼陀羅ハともに寶庫に藏む
萬年山福昌寺 同所より又東よりあり禪宗ありて京都妙心
寺に属に本尊ハ聖觀世音并ありて開山を劔舟和尚といふ
相傳ふ山田村川上の農民等打擧りて建立せし寺刹といふ
いろある所謂ありけん寺記廢きて詳らざるは項ハ九天貞
の間ありといへり

三

茶臼山 同所上より聳へたる山をいふ往昔大内家旗下岩成
豊後守城跡といひ傳へり今猶山頭は礎石井筒るところか
ここに残りてありやと絶頂の大松一株ハ御打入の已降山
の姿見らめ甲斐よき為として祖式守兵衛某にて裁させむ
所ありと或書いへり

八江菽名所圖画二之卷終

